

平成 28 年度
鳥取県青少年育成意識調査
報告書

平成 29 年 3 月
鳥取県

目 次

第Ⅰ章 鳥取県青少年育成意識調査の概要	
1 調査の目的	1
2 調査の主体	1
3 調査範囲	1
4 調査票配布数	1
5 抽出方法	1
6 調査方法	2
7 調査の基準日	2
8 調査期間	2
9 調査内容	2
10 回収結果	2
11 回収した標本の構成	2
12 集計方法	4
13 集計委託	4
14 報告書の見方	4
第Ⅱ章 調査結果	
1 青少年について	
(1) 属性	5
ア 性別	
イ 青年の年齢	
ウ 青年の職業	
(2) 家族・家庭	7
ア 同居家族	
イ 家族構成	
ウ 家庭生活の満足度	
エ 家庭生活満足の理由	
オ 家庭生活不満足の理由	
カ 家族への意識（青年）	
キ 大人の家族との会話の頻度	
ク 保護者から見た、子どもとの会話の頻度	
ケ 大人の家族と夕食を食べる頻度	
コ 大人の家族へ望むこと	
サ 家庭での指導の内容	
(3) 地域とのかかわり・地域での活動	19
ア 地域での活動への参加状況	
イ ボランティアへの参加	
ウ ボランティアへの関心	
エ 関心のあるボランティアの内容	
オ 地域の大人との親しさ	
カ 保護者から見た地域の子どもの親しさ	
キ 地域への居留意向	
ク 子どもの居住先についての保護者の意向	
ケ 青年と保護者から見た地域の良い点	
コ 選挙投票についての意識	
サ 青年のサークル活動への参加	
シ 青年が参加するサークル活動の内容	
ス 青年のサークル活動参加のきっかけ	
(4) 友人関係	32
ア 友だちの有無	
イ 友だちになったきっかけ	
(5) 生活	34
ア 基本的生活習慣の状況	
(ア) 朝起きる時、自分一人で起きる	
(イ) 身の回りや部屋のかたづけをする	
(ウ) 家の手伝いをする	

- (エ) 朝ご飯を食べる
 - (オ) テレビを見る時間を決めている
 - (カ) 家で勉強する
 - (キ) 近所の人や知り合いにあいさつする
 - イ こづかいの用途
 - ウ 休日の過ごし方
 - エ インターネット機器の利用状況
 - オ インターネットの利用目的
 - カ インターネットの利用時間
 - キ 青年が普段自宅をよくしていること
 - ク 打ち込んでやれることの有無
 - ケ 打ち込んでやれることの内容
 - コ 青年が充実していると感じるとき
 - サ 体験的活動の経験
- (6) 学校生活.....54
- ア 学校生活の満足度
 - イ 学校生活満足の理由
 - ウ 学校生活不満足の理由
 - エ 学校へ行きたくないと思った経験
 - オ 学校へ行きたくない時どうしたか
 - カ 学校へ行きたくない理由
 - キ いじめの経験
- (7) 進路・職業観.....62
- ア 将来就きたい仕事を決めているか
 - イ 職業選択の規準
 - ウ 希望する最終学歴
 - エ 子どもの最終学歴に関する保護者の意向
 - オ 青年の働くことについての考え方
- (8) 心の状態.....67
- ア 自己肯定感（自分には良いところがあると思う）
 - イ 抑うつ感（いらいらしたり、おこりっぽくなったりすることがある）
 - ウ 抑うつ感（いつも疲れた感じがする）
 - エ 抑うつ感（死にたいと思ったことがある）
 - オ 悩みの有無
 - カ 悩みの内容
 - キ 悩みの相談相手
 - ク 青年の対人関係に関する意識
 - ケ やればできると思った体験の有無
 - コ やればできると思った体験の内容
 - サ 青年と保護者が考える若いうちにすべきこと
 - シ 居心地がよい場所
- (9) 非行.....79
- ア 非行の経験
 - (ア) 家の金を、だまって持ち出したことがある
 - (イ) 家の人にひどく反抗したことがある
 - (ウ) 学校の先生に暴力で反抗したことがある
 - (エ) 学校の授業をさぼったことがある
 - (オ) 友だちとゲームセンターに行ったことがある
 - (カ) 友だちとカラオケボックスに行ったことがある
 - (キ) アダルト（ポルノ）雑誌やアダルトDVDを見たことがある
 - (ク) インターネットのアダルトサイトを見たことがある
 - (ケ) タバコを吸ったことがある
 - (コ) 酒を飲んだことがある
 - (サ) 友だちと深夜まで遊んでいたことがある
 - (シ) 家の人にだまって外泊をしたことがある
 - (ス) 出会い系サイトを使ったことがある
 - (セ) インターネット上の掲示板などに他人の悪口などの書き込みをしたことがある
 - イ 触法行為の経験
 - (ア) 他人の自転車やオートバイを無断で乗りまわした
 - (イ) けんかをして、人をなぐった
 - (ウ) 店の品物を金を払わずに持って出た

- (エ) むりやり人からお金や品物を取りあげた
 - (オ) 大麻や覚醒剤、シンナー等の薬物を使った
 - (カ) ファッションや護身のためにナイフを持ち歩いた
 - (キ) 頭の中が真っ白になって暴力をふるった
 - (ク) 危険ドラッグを使った
- ウ 性非行を行うことへの意識

(10) 被害の経験.....	93
ア 被害の経験	
(ア) おどされて、お金や物をとられた	
(イ) 列車や人混みの中で、ちかんにあった	
(ウ) インターネット上の掲示板などで自分の悪口などの書き込みをされた	
(11) 非行傾向による比較.....	95
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
イ 非行傾向群と一般群の比較方法	
ウ 属性	
エ 家族・家庭	
オ 友人関係	
カ 生活	
キ 学校生活	
ク 心の状態	
ケ 非行	
(12) 触法行為経験による比較.....	104
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
イ 触法行為経験群と一般群の比較方法	
ウ 属性	
エ 家族・家庭	
オ 地域とのかかわり・地域での活動	
カ 生活	
キ 学校生活	
ク 非行	
(13) 性関係を持ってもよいと思うか、思わないかによる比較.....	109
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
イ 性関係許容群と性関係非許容群の比較方法	
ウ 属性	
エ 非行	
(14) 「死にたい」と思った経験による比較.....	112
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
イ 自死願望経験群と自死願望非経験群の比較方法	
ウ 属性	
エ 家族・家庭	
オ 生活	
カ 学校生活	
キ 心の状態	
ク 非行・被害	
(15) ボランティアへの参加経験の有無による比較.....	119
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
イ ボランティア参加群とボランティア不参加群の比較方法	
ウ 家族・家庭	
エ 地域とのかかわり・地域での活動	
オ 生活	
カ 心の状態	
(16) 選挙投票への意識による比較.....	123
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
イ 積極的政治参加群と政治不参加群の比較方法	
ウ 家族・家庭	
エ 地域とのかかわり・地域での活動	
オ 生活	
カ 非行	

(17) 一日のインターネット利用時間（長さ）による比較.....	127
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
イ 一日のインターネット利用時間（長さ）各群の比較方法	
ウ 生活	
エ 学校生活	
オ 心の状態	
カ 非行・被害	
(18) ひきこもりについて.....	132
ア 鳥取県青少年育成意識調査での区分	
2 保護者について.....	134
(1) 属性.....	134
ア 回答の対象とした子どもの学年	
イ 回答した保護者の続柄	
ウ 回答した保護者の年齢	
(2) 悩み.....	136
ア 子どもについての保護者の悩み	
イ 保護者の悩みの対応法	
(3) 保護者から見た子どもの様子.....	138
ア 保護者が把握する子どもの交友関係	
イ 保護者が把握する子どもの悩みの相談相手	
(4) 保護者から見た家庭環境.....	140
ア 保護者が感じる家族関係の良好度	
イ 保護者が子育てで心がけていること	
ウ ペアレンタル・コントロールの状況	
(5) 青少年に関する問題.....	143
ア 青少年に関する問題への保護者の関心	
イ 保護者が考える非行の理由	
ウ 保護者が考える子どもの非行傾向	
エ 子どもの行為について保護者がしても良いと考える年齢	
(ア) 子どもだけでファストフード店等の飲食店に行く	
(イ) ゲームセンターで遊ぶ	
(ウ) アダルト（ポルノ）雑誌やアダルト DVD を見る	
(エ) 無断で外泊をする	
(オ) 深夜まで外で遊ぶ	
(カ) 交際相手と二人で歩いたり登下校したりする	
(キ) 交際相手と二人でファストフード店や映画館に行く	
(ク) 交際相手の家に行ったり自分の家に呼んだりする	
(ケ) 交際相手の部屋や自分の部屋で二人だけで話す	
(コ) 交際相手と二人で泊まりがけの旅行に行く	
(サ) 交際相手と二人で同じ部屋で生活をする	
(6) 学校や地域とのかかわり.....	152
ア 保護者活動への参加意識	
イ 保護者の地域活動への参加状況	

第三章 資料

調査票	
小学2年用.....	155
小学5年用.....	158
中学2年用.....	164
高校2年用.....	172
青年用.....	179
保護者用.....	186

第1章 鳥取県青少年育成意識調査の概要

1 調査の目的

青少年及び成人の意識並びに行動を調査することにより、その実態を把握し、過去に実施した調査結果との時間経過による変化を分析し、青少年施策の基礎資料を得ること。

また、調査結果は、「とっとり若者自立応援プラン」の策定の基礎資料とすること。

2 調査の主体

鳥取県

3 調査範囲

(1) 地域 鳥取県全域

(2) 対象者・必要な標本数

本調査に必要な標本数は、下表に掲げる対象者の区分に応じ、それぞれ同表に掲げる人数とする。但し、調査の信頼度を95%、標本誤差を5%に設定している。

区分	小2	小5	中2	高2	保護者	青年 (19-29歳)
人数	400人	400人	400人	400人	1,600人	380人

4 調査票配布数

(1) 全体 5,388

※必要な標本数を回収するため、区分別に前回調査の回収率を参考に配布数を決定。

(2) 調査対象別

区 分	調査票配布数
小学2年（児童）	450
小学5年（児童）	476
中学2年（生徒）	477
高校2年（生徒）	441
保護者（上記児童生徒の保護者）	1,844
青 年	1,700
合 計	5,388

5 抽出方法＜無作為抽出＞

(1) 小学2年、小学5年及び中学2年の児童・生徒

鳥取県の東・中・西部地区別の対象学年の児童、生徒数に応じ標本数を比例配分し、鳥取県教育委員会が有する学校一覧から対象とする学級を系統抽出（学級単位で抽出し、該当学級の児童・生徒を調査対象者とした）。

(2) 高校2年

公立、私立、課程、学科の生徒数に応じ標本数を比例配分し、鳥取県教育委員会が有する学校一覧から対象となる学級を系統抽出（学級単位で抽出し、該当学級の生徒を調査対象者とした）。

(3) 保護者

上記（1）及び（2）により抽出した児童、生徒の保護者を対象者とした。

(4) 青年

各市町村の19～29歳の人口に応じて標本数を比例配分し、住民基本台帳をもとに対象者を系統抽出した。

6 調査方法

(1) 小学2年、小学5年、中学2年及び高校2年

抽出した学校（学級）を通じ、対象の児童・生徒に調査票を配布、回収した。

(2) 保護者

小学2年、小学5年、中学2年及び高校2年の調査対象者となった児童・生徒を通じ、その保護者に調査票の配布、回収を行った。

(3) 青年

鳥取県から郵送により調査票を配布し、郵送にて回収した。

7 調査の基準日

平成28年7月1日

8 調査期間

平成28年7月1日から31日まで

(9月30日までに届いた調査票は集計に含めた。)

9 調査内容

(1) 青少年自身について

ア 心と人間関係 = 自己肯定感、悩み、相談相手、交友関係、体験的活動（自然、生活、社会等）等

イ 非行（含 性非行）・いじめについて = 喫煙、深夜徘徊、外泊やいじめ、薬物に関する経験 等

ウ 不登校について = 学校へ行きたくないと思った経験、理由 等

エ 生活について = 基本的生活習慣、普段の生活、インターネットの利用状況 等

(2) 青少年を取り巻く環境について

ア 家庭について = 家庭生活の満足度とその理由、家族間のコミュニケーション、しつけ、ペアレンタルコントロールの状況 等

イ 学校について = 学校生活の満足度とその理由 等

ウ 地域について = 地域活動への参加、地域への居留意向、選挙への意識 等

10 回収結果（回収分析標本数）

(1) 全体 3,890 標本（回収率 72.5%）

(2) 調査対象別

区 分	調査票配布数 A	調査票不達数 B	回収数 C	回収率 (%) C / (A-B)
小学2年 (児童)	450	0	448	99.6
小学5年 (児童)	476	0	470	98.7
中学2年 (生徒)	477	0	468	98.1
高校2年 (生徒)	441	0	438	99.3
保護者	1,844	7	1,683	91.6
青年	1,700	16	383	22.7
合 計	5,388	23	3,890	72.5

11 回収した標本の構成

ブロック別の構成は以下のとおりである。

東部・・・鳥取市、岩美郡、八頭郡

中部・・・倉吉市、東伯郡

西部・・・米子市、境港市、西伯郡、日野郡

【小学2年・小学5年・中学2年の児童生徒】

区分	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	調査結果		県全体		調査結果		県全体		調査結果		県全体	
	回答者数	割合	児童数	割合	回答者数	割合	児童数	割合	回答者数	割合	生徒数	割合
東部	165	36.8%	1,791	38.8%	216	46.0%	1,910	39.8%	182	38.9%	1,903	37.6%
中部	87	19.4%	878	19.0%	79	16.8%	826	17.2%	57	12.2%	843	16.7%
西部	196	43.8%	1,882	40.8%	175	37.2%	2,005	41.8%	201	42.9%	2,061	40.7%
国立	0	0.0%	64	1.4%	0	0.0%	61	1.3%	0	0.0%	137	2.7%
私立	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	28	6.0%	116	2.3%
合計	448	100.0%	4,615	100.0%	470	100.0%	4,802	100.0%	468	100.0%	5,060	100.0%

【小学2年・小学5年・中学2年の保護者】

区分	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	調査結果		県全体		調査結果		県全体		調査結果		県全体	
	回答者数	割合	保護者数	割合	回答者数	割合	保護者数	割合	回答者数	割合	保護者数	割合
東部	163	38.7%	1,791	38.8%	208	47.3%	1,910	39.8%	178	40.7%	1,903	37.6%
中部	74	17.6%	878	19.0%	70	15.9%	826	17.2%	55	12.6%	843	16.7%
西部	184	43.7%	1,882	40.8%	162	36.8%	2,005	41.8%	177	40.5%	2,061	40.7%
国立	0	0.0%	64	1.4%	0	0.0%	61	1.3%	0	0.0%	137	2.7%
私立	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	27	6.2%	116	2.3%
合計	421	100.0%	4,615	100.0%	440	100.0%	4,802	100.0%	437	100.0%	5,060	100.0%

【高校2年の生徒】

公・私	生徒数	課程	生徒数	学科	生徒数	地区	調査結果		県全体	
							回答者数	割合	生徒数	割合
県立	3,970	全日	3,873	普通科系	2,275	東	76	17.4%	988	19.2%
						中	39	8.9%	448	8.7%
						西	81	18.5%	839	16.3%
				専門（職業教育）系	1,320	東	36	8.2%	528	10.3%
						中	35	8.0%	278	5.4%
						西	37	8.4%	514	10.0%
		総合学科	278	東	0	0.0%	74	1.4%		
				中	0	0.0%	—	—		
				西	36	8.2%	204	4.0%		
		定時	97	普通科系	37	東	0	0.0%	—	—
						中	0	0.0%	11	0.2%
						西	0	0.0%	26	0.5%
総合学科	60			東	0	0.0%	45	0.9%		
				中	0	0.0%	—	—		
				西	0	0.0%	15	0.3%		
私立	1,174	全日	1,174	普通科系	905	東	32	7.3%	424	8.2%
						中	0	0.0%	138	2.7%
						西	37	8.4%	343	6.7%
				専門（職業教育）系	269	東	0	0.0%	40	0.8%
						中	0	0.0%	15	0.3%
						西	29	6.6%	214	4.2%
合計	5,144		5,144		5,144	438	100.0%	5,144	100.0%	

【高校2年の保護者】

公・私	生徒数	課程	生徒数	学科	生徒数	地区	調査結果		県全体	
							回答者数	割合	保護者数	割合
県立	3,970	全日	3,873	普通科系	2,275	東	68	17.7%	988	19.2%
						中	39	10.1%	448	8.7%
						西	69	17.9%	839	16.3%
				専門（職業教育）系	1,320	東	35	9.1%	528	10.3%
						中	34	8.8%	278	5.4%
						西	18	4.7%	514	10.0%
				総合学科	278	東	0	0.0%	74	1.4%
						中	0	0.0%	—	—
						西	32	8.3%	204	4.0%
		定時	97	普通科系	37	東	0	0.0%	—	—
						中	0	0.0%	11	0.2%
						西	0	0.0%	26	0.5%
総合学科	60	東	0	0.0%	45	0.9%				
		中	0	0.0%	—	—				
		西	0	0.0%	15	0.3%				
私立	1,174	全日	1,174	普通科系	905	東	31	8.1%	424	8.2%
						中	0	0.0%	138	2.7%
						西	30	7.8%	343	6.7%
				専門（職業教育）系	269	東	0	0.0%	40	0.8%
						中	0	0.0%	15	0.3%
						西	29	7.5%	214	4.2%
合計	5,144		5,144		5,144	385	100.0%	5,144	100.0%	

(注1) 児童・生徒数は鳥取県学校便覧（平成28年5月1日現在）による。

(注2) 保護者数は、上記注1の児童生徒数と同数とした。

【青年】

青年については、県内の19歳～29歳の人口（平成27年10月1日現在の推計）を元に比例配分したが、居住地を尋ねる設問を行っておらず、回答者の居住市町村別の構成を特定できない。

12 集計方法 単純集計とクロス集計を行う。

13 集計委託 特定非営利活動法人 Studio-E
 理事長 大森 克美
 所在地 鳥取市杉崎 601-2 グリーンハイツ杉崎 1階

14 報告書の見方

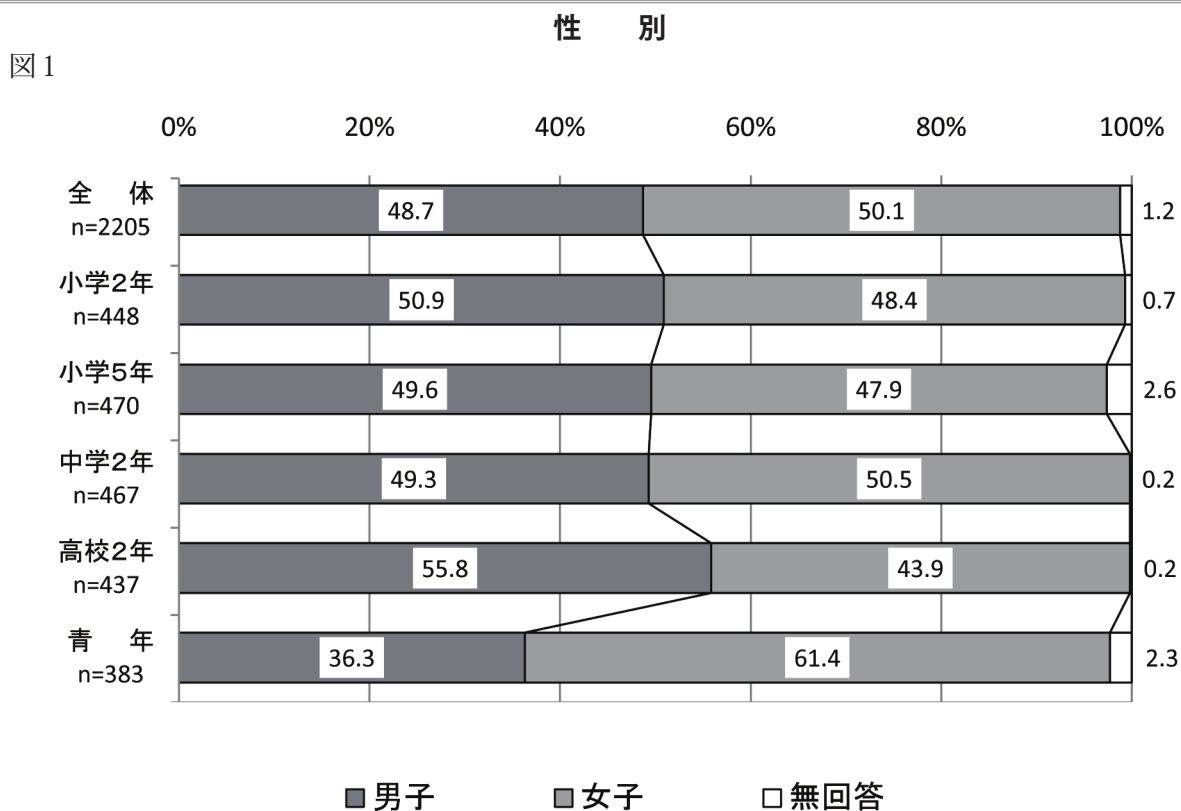
- (1) nは質問に対する有効回答者数で、割合（100%）が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 質問には、全員が1つの回答を選ぶもののほか、前問で特定の回答とした一部の回答者のみに対して続けて行う質問と1回答者が2つ以上の回答をすることができる質問がある。2つ以上を回答する質問では、1つの選択肢の回答者の合計を有効回答者数で割った比率である。（各選択肢の比率の合計は、100%を超える場合がある。）
- (3) 結果数値は、小数点以下第二位を四捨五入してあるので、内訳の合計が計（100.0%）に一致しないこともある。

第Ⅱ章 調査結果

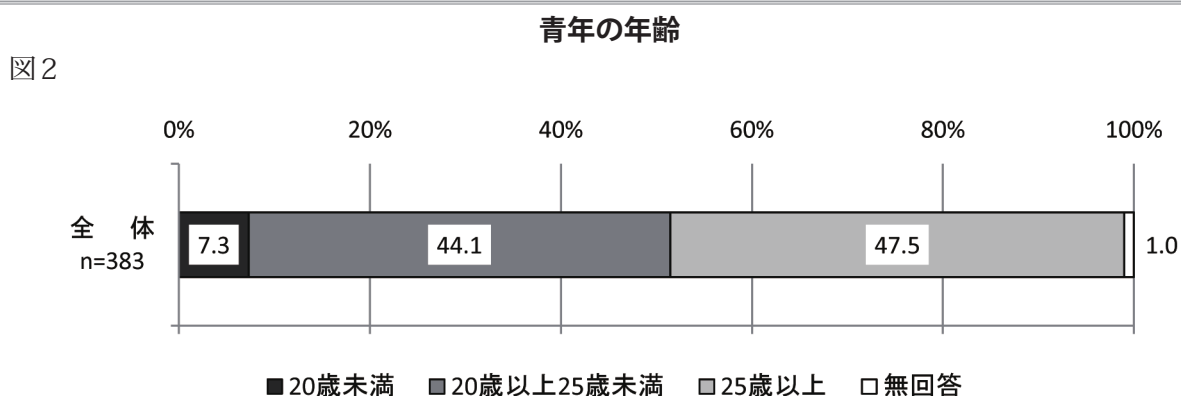
1 青少年について

(1) 属性

▶▶ ア 性別



▶▶ イ 青年の年齢

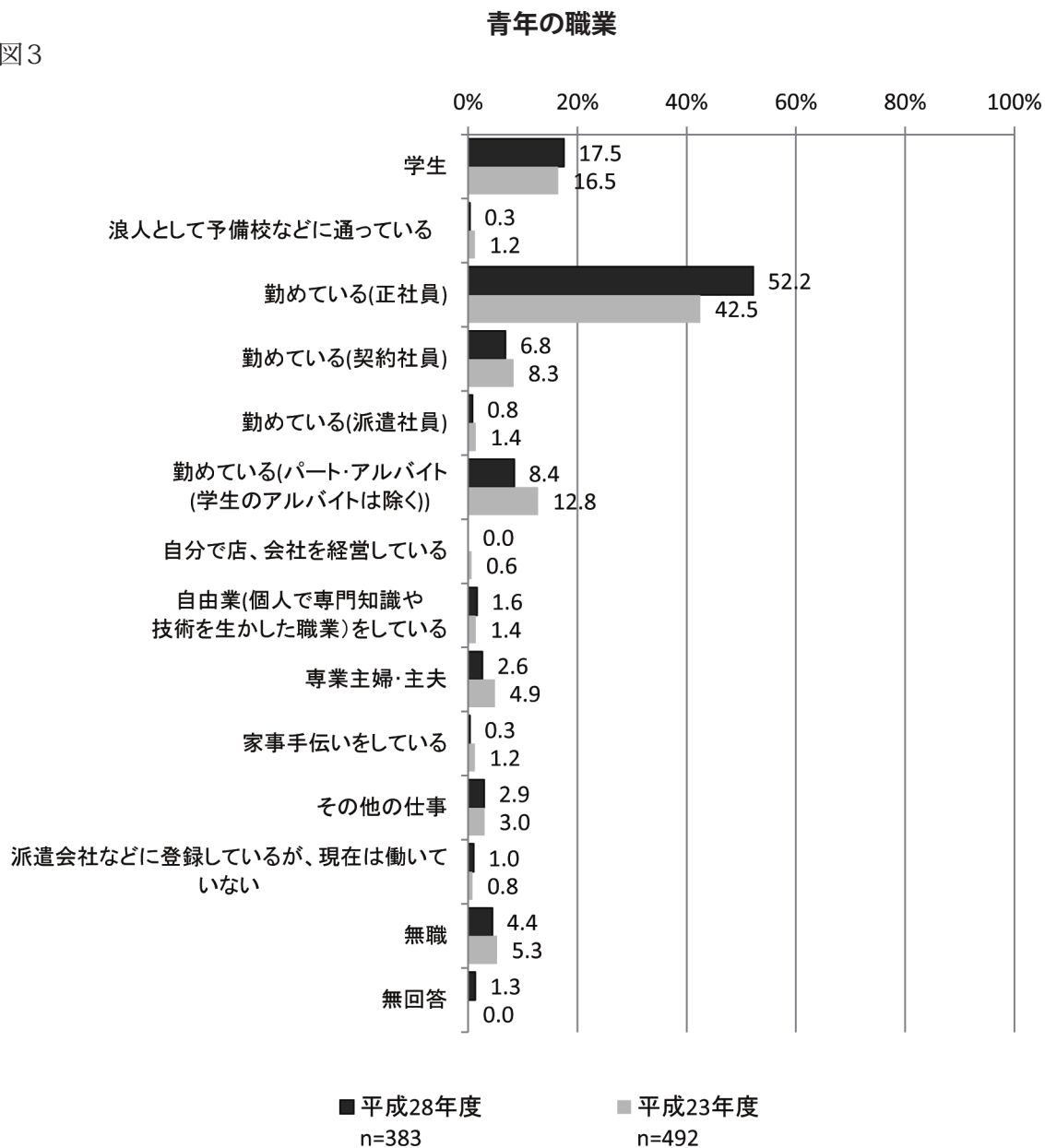


ウ 青年の職業

問 あなたの現在の職業について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

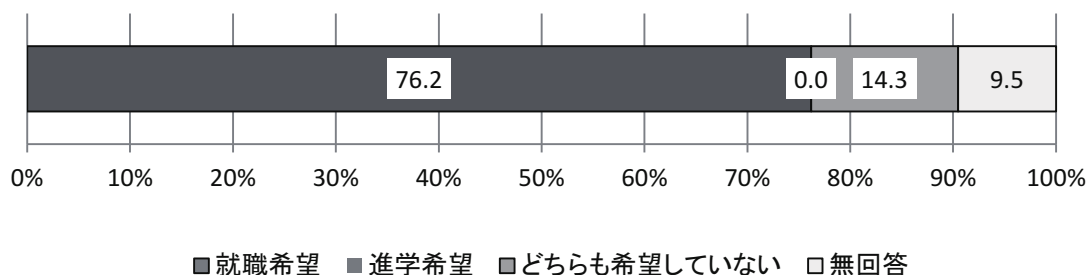
平成23年度と比較すると、青年の職業は、正社員が約43%から約52%に増加している一方、非正規雇用（派遣・契約・パート・アルバイトの合計）が約23%から16%に減少している。

図3



「無職」または「派遣会社などに登録しているが現在は働いていない」と回答した方に、今後の就職・進学希望を聞いた結果は下記のとおりであった。

図4



(2) 家族・家庭

ア 同居家族

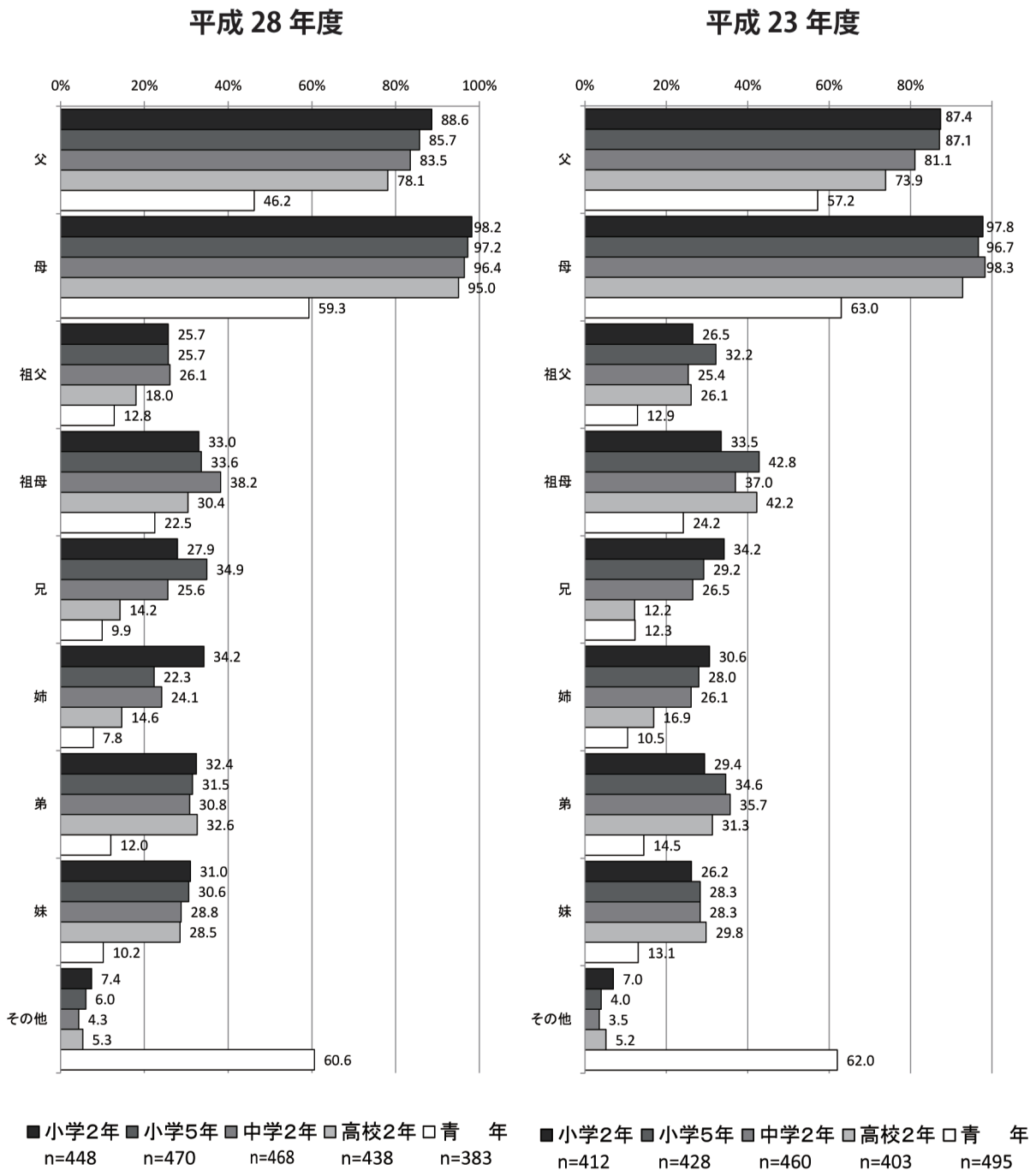
問 今、あなたといっしょに住んでいるのはだれですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

父と同居の割合と母と同居の割合を比較すると、全ての年代で10～20%程度母と同居の割合が高い。

平成23年度と比較すると、祖父・祖母との同居の割合はほとんどの年代で減少している。

同居家族

図5

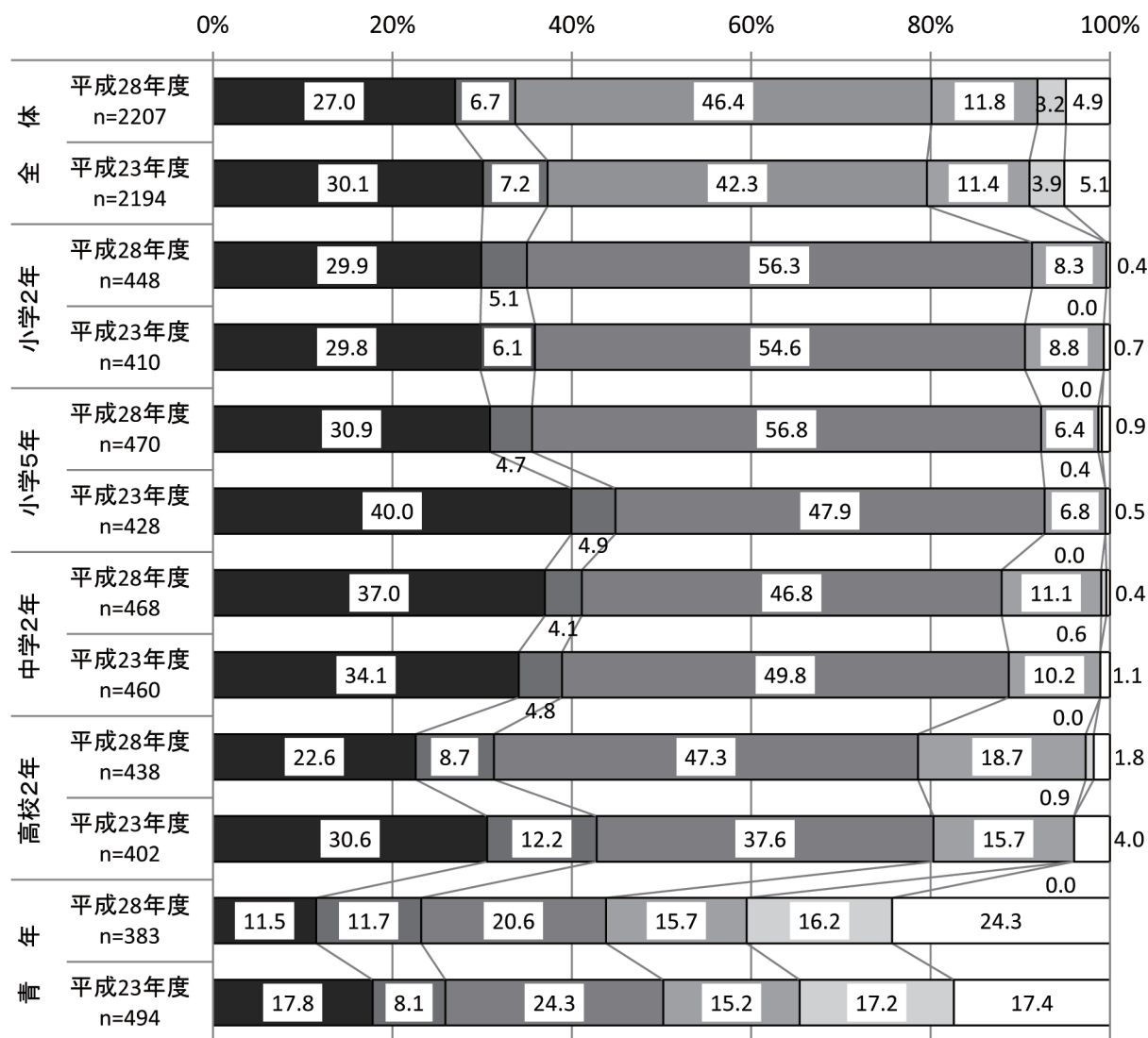


▶▶ イ 家族構成

同居家族の回答について、「父母、祖父母、兄弟姉妹と同居」「父母、祖父母と同居」「父母、兄弟姉妹と同居」「父母と同居」「同居家族無し（単身世帯）」「その他」の6つに分類し、家族構成のパターン別に集計を行った結果、小学2年から高校2年の各年代で、「父母、兄弟姉妹と同居」が4～5割と最も高く、次いで「父母、祖父母、兄弟姉妹と同居」が2割～4割となっている。

家族構成

図6



- 父母、祖父母、兄弟姉妹と同居
- 父母、祖父母と同居
- 父母、兄弟姉妹と同居
- 父母と同居
- 同居家族無し(単身世帯)
- その他

※ 「父母」「祖父母」「兄弟姉妹」は、いずれも該当する親族と一人でも同居していれば、その親族と同居している区分とした。

(例)

回答が「父」「母」「祖母」「弟」と同居であった場合、「父母、祖父母、兄弟姉妹と同居」に区分。

ウ 家庭生活の満足度

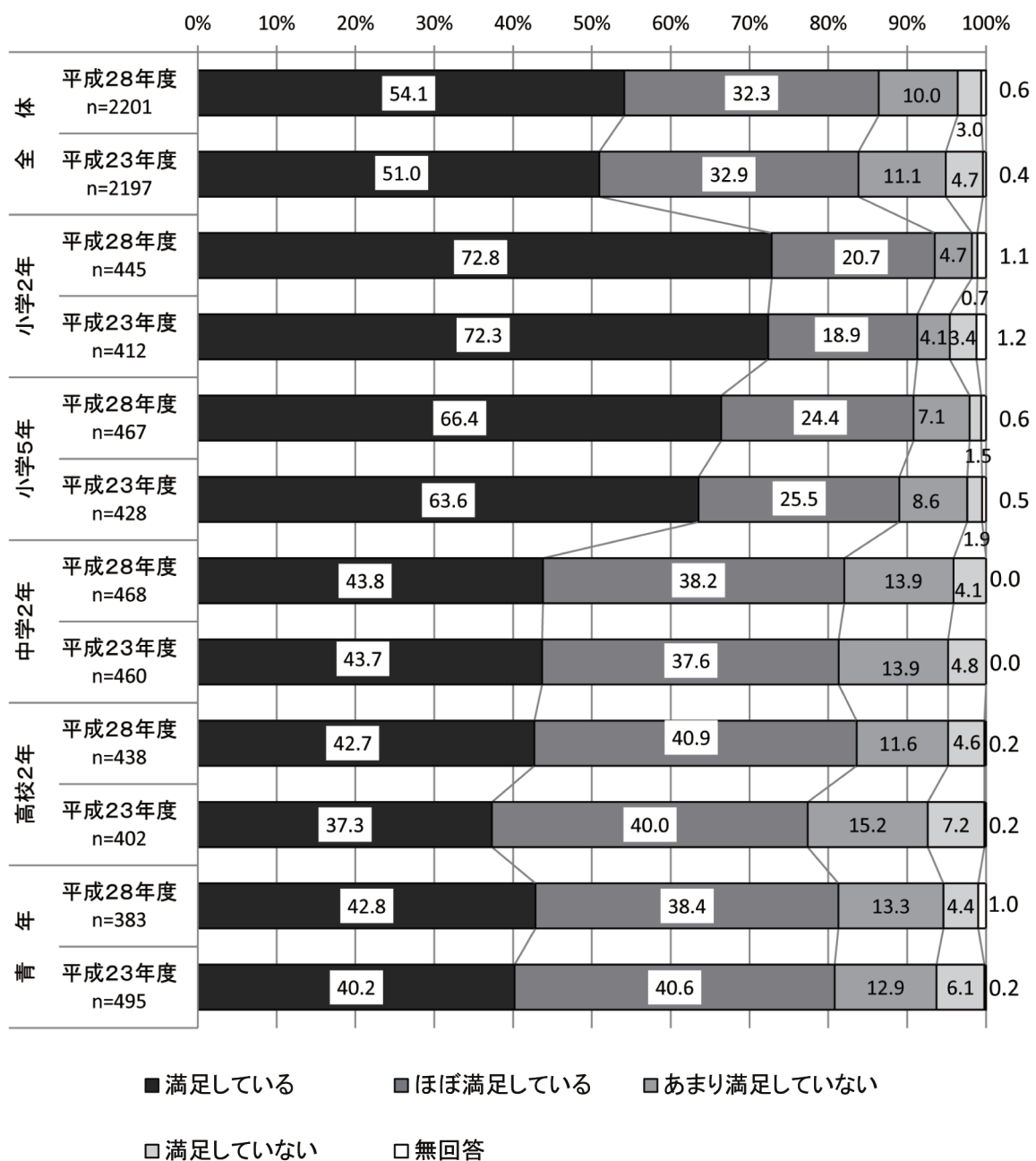
問 あなたは、家庭での生活に満足していますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた割合は、各年代とも8割を超えている。また、平成23年度と比較すると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた割合は、いずれの年代でも上昇している。

「満足している」の割合は、小学2年、小学5年の約7割、中学2年、高校2年、青年の約4割で、年齢が上がるにつれ減少している。

家庭生活の満足度

図7



▶▶ Ⅰ 家庭生活満足の理由

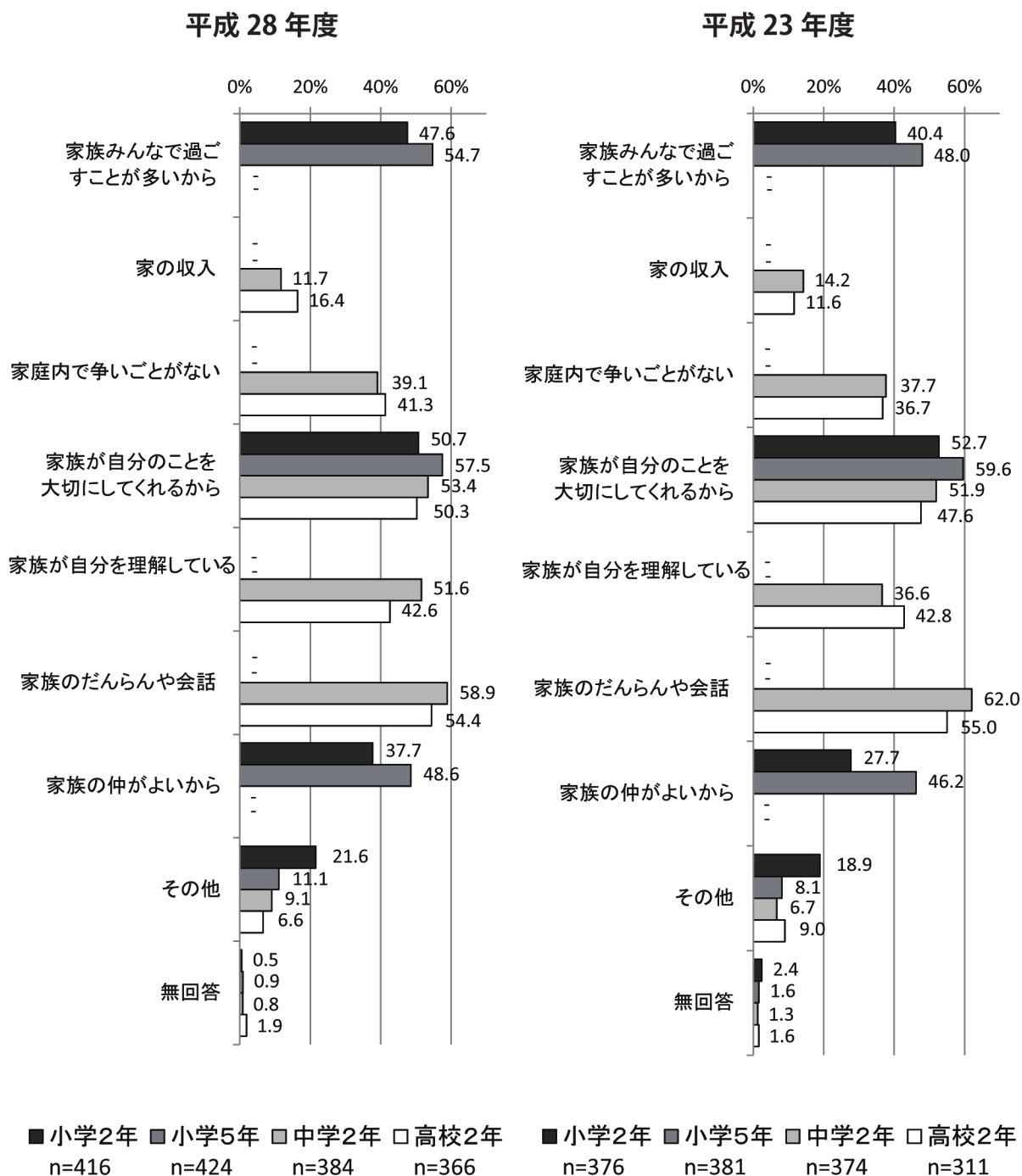
問 質問 25 (家庭生活の満足度) で「1 満足している」、「2 ほぼ満足している」を選んだ人に質問します。満足している理由は何ですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

各年代とも「家族が自分のことを大切にしてくれるから」が5割以上となっている。小学2年、5年では「家族みんなで過ごすことが多いから」が4割～5割、中学2年、高校2年では「家族のだんらんや会話」が5割以上であった。

一方で、家庭生活の満足の理由として、「家の収入」を選んだ割合は2割以下であった。(中学2年、高校2年にのみ質問)

家庭生活 満足の理由

図8



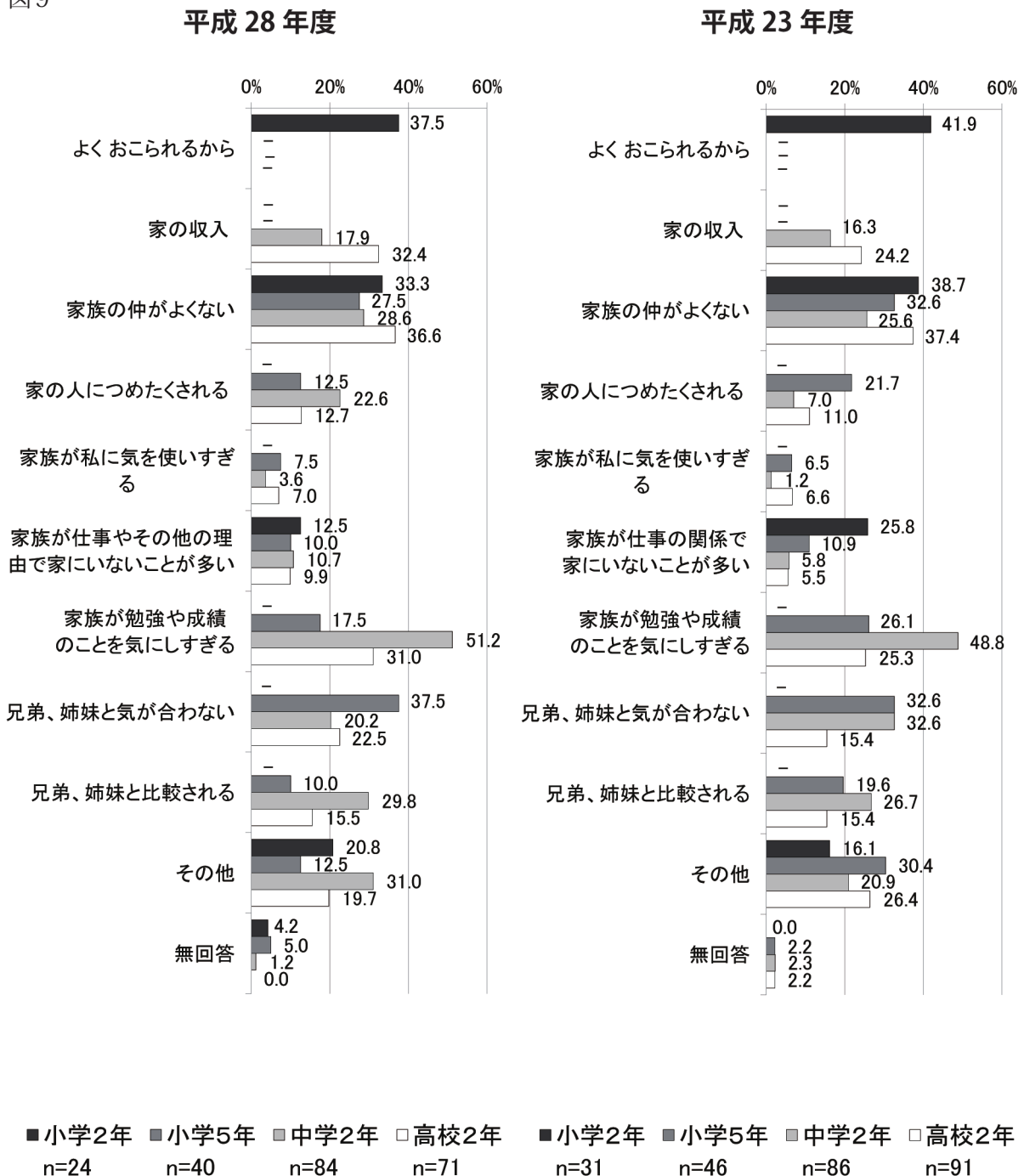
▶▶ オ 家庭生活不満足の原因

問 質問 25 (家庭生活の満足度) で「3 あまり満足していない」、「4 満足していない」を選んだ人に質問します。満足していない理由は何ですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

小学2年では「よくおこられるから」を選ぶ者が、小学5年では「兄弟・姉妹と気が合わない」を選ぶ者が最も多くいずれも4割弱あった。中学2年では「家族が勉強や成績のことを気にしすぎる」が5割を超えている。各年代とも共通して、3割前後が「家族の仲がよくない」をあげている。

家庭生活不満足の原因

図9



▶▶▶ 力 家族への意識（青年）

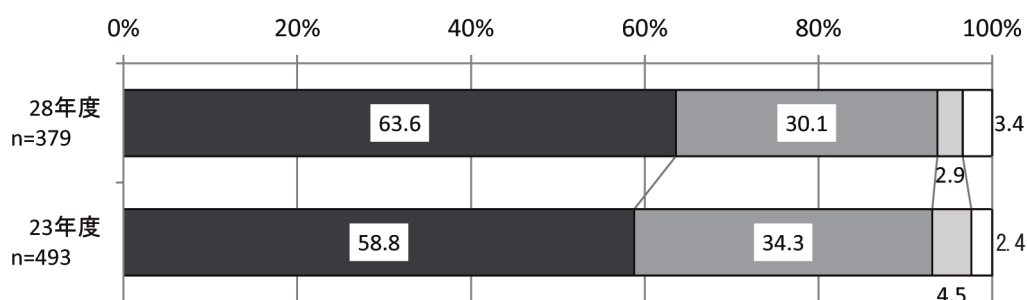
問 以下の項目について、あなた自身にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。
 (○は各項目につきひとつ)

青年に対し、家族への意識を尋ねたところ、「私の家族は温かい」「私たち家族は、仲がよいと思う」「家族から十分に愛されていると思う」の各項目について、6割前後が「はい」と回答し、「どちらかといえばはい」と合わせると9割以上であった。

23年度と比較すると、いずれの項目でも「はい」の割合が増加している。

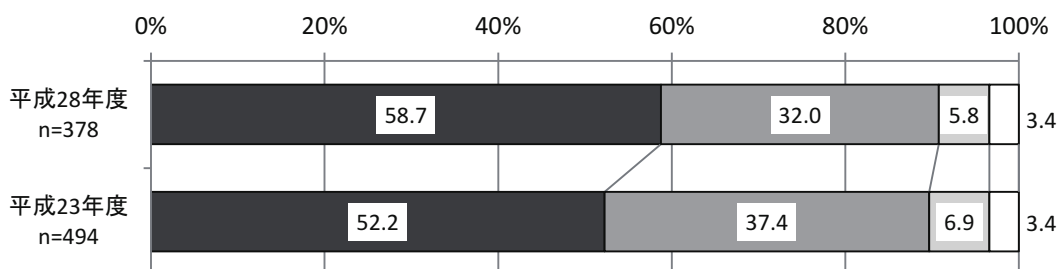
私の家族は温かい

図10



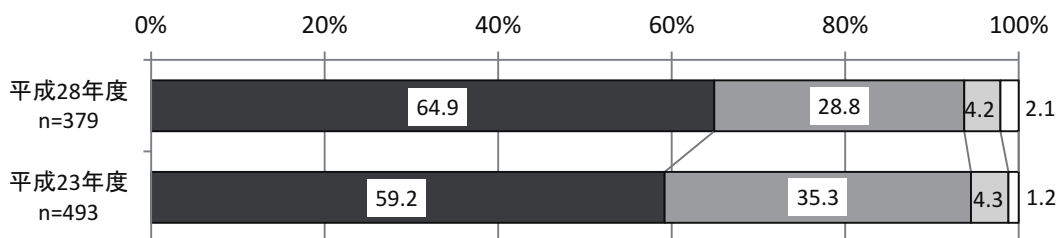
私たち家族は、仲がよいと思う

図11



家族から十分に愛されていると思う

図12



■はい ■どちらかといえばはい □どちらかといえばいいえ □いいえ

(各グラフのn値は、前回との比較のため無回答を除いた)

キ 大人の家族との会話の頻度

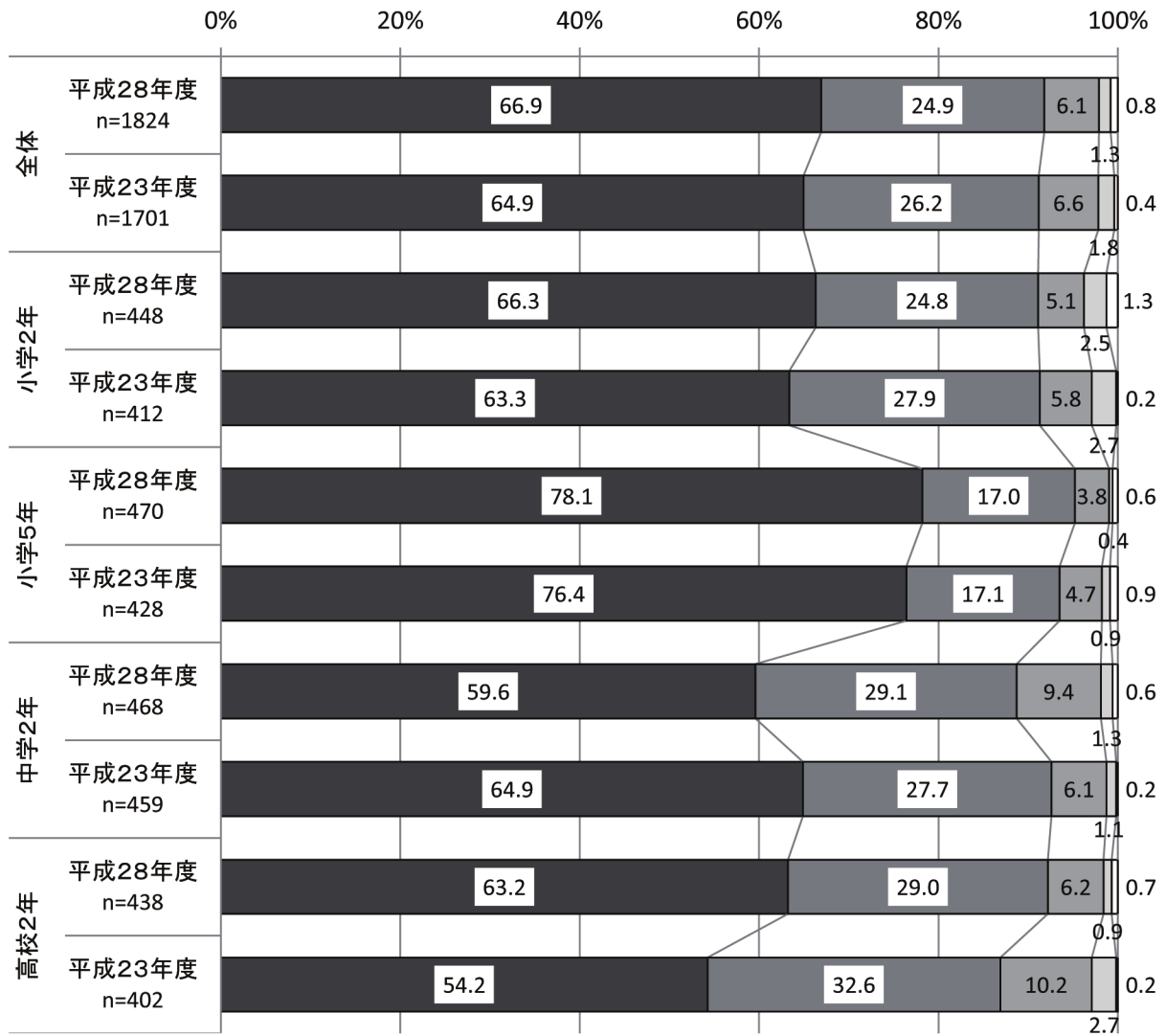
問 あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）とどれぐらい話をしますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「よく話す」の割合は、多い順に小学5年（約78%）、小学2年（約66%）、高校2年（約63%）、中学2年（約60%）であった。

平成23年度と比較すると、中学2年を除く年代で「よく話す」の割合が増加している。

大人の家族との会話の頻度

図13



■よく話す ■時々話す ■ほとんど話さない □全く話さない □無回答

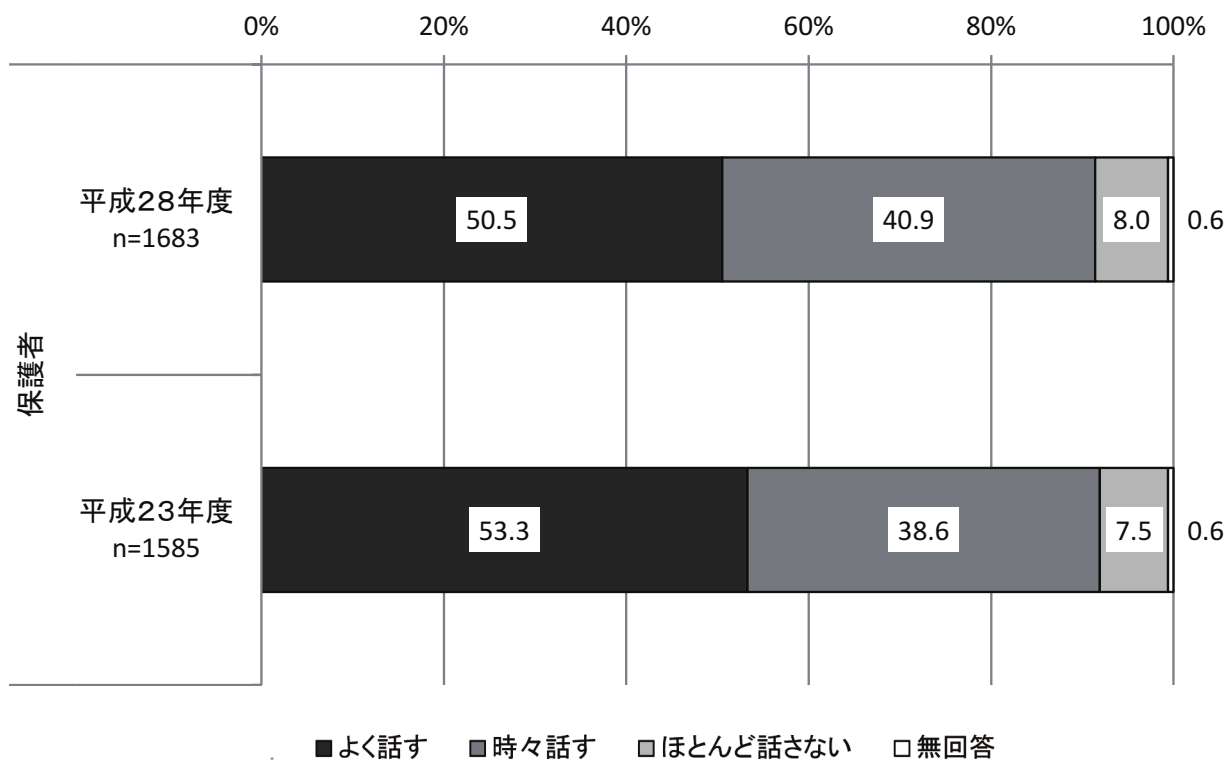
▶▶ ク 保護者から見た、子どもとの会話の頻度

問 お子さんは学校や友達のことを、よく話しますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

「よく話す」が5割程度を占め、「ほとんど話さない」は1割に満たない。

保護者から見た、子どもとの会話の頻度

図14



▶▶ ケ 大人の家族と夕食を食べる頻度

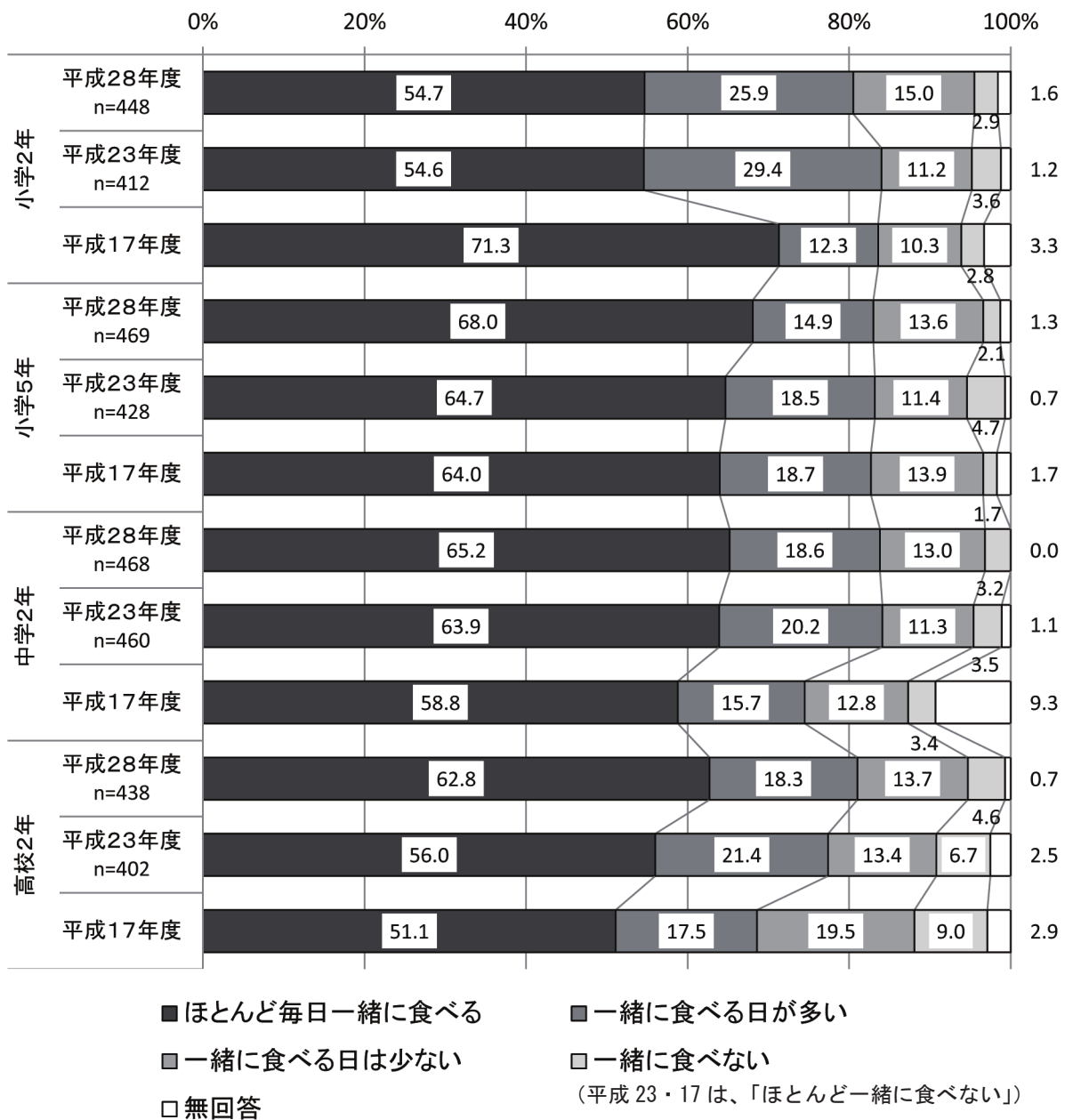
問 あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）と一緒に夕食を食べますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「ほとんど毎日一緒に食べる」と「一緒に食べる日が多い」を合わせた割合は、いずれの年代でも8割を超えている。

平成23年度と比較すると、全ての年代で「ほとんど毎日一緒に食べる」の割合が増加している。また、小学2年以外では、平成17年度から平成28年度まで「ほとんど毎日一緒に食べる」の割合が増加している。

大人の家族と夕食を食べる頻度

図15



▶▶▶ コ 大人の家族へ望むこと

問 あなたは、大人の家族（兄弟、姉妹以外の家族）に何を望みますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

年代が大きくなるほど「愛情をもって接してほしい（やさしく思いやりを持って接してほしい）」が減少する傾向にある一方、「特にない」の割合が増加している。

大人の家族へ望むこと

図16

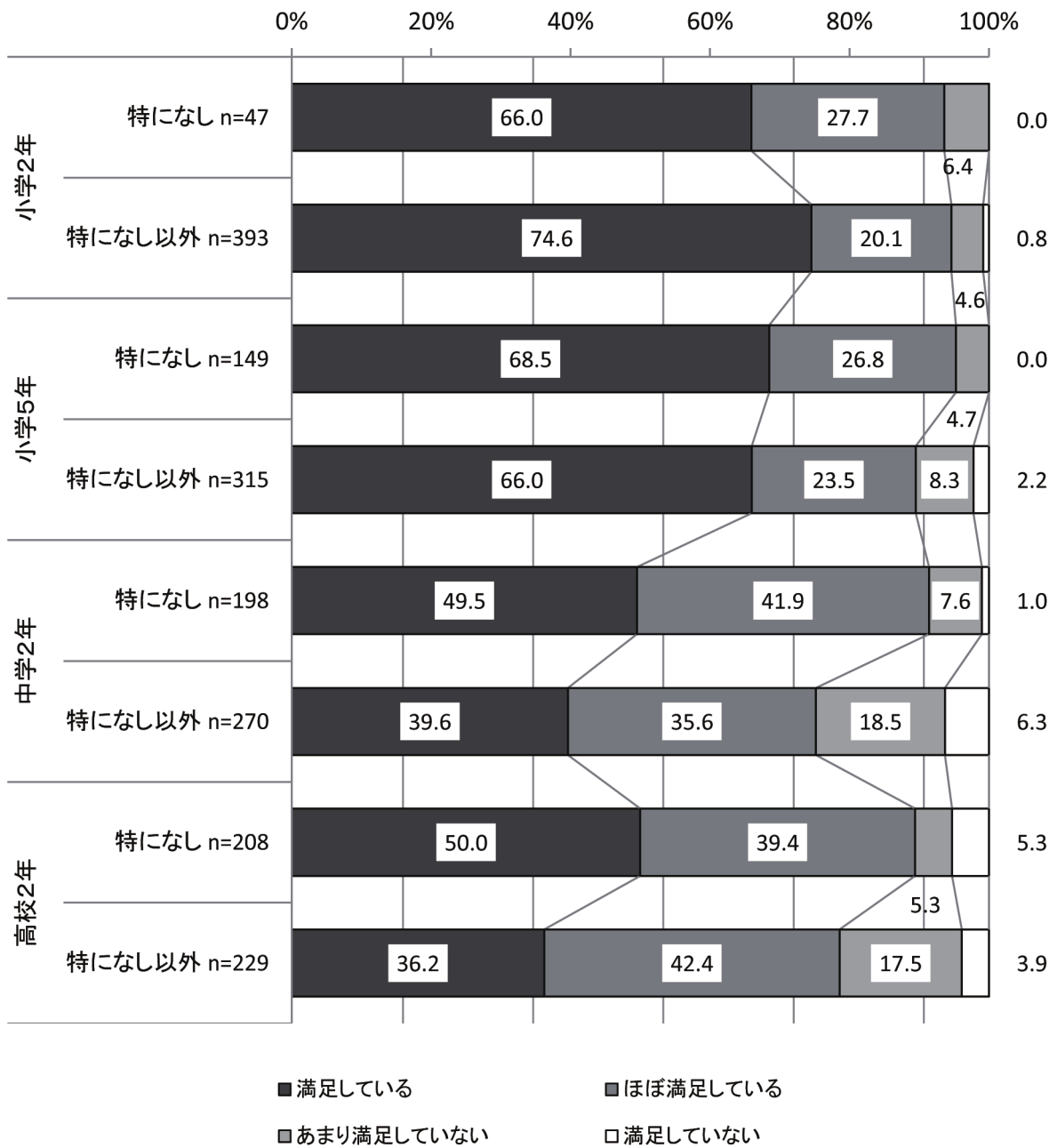


小学5年、中学2年、高校2年では、大人の家族に望むことが「特になし」と回答した割合が最も多かった。これが、家族関係への満足を反映したものか、反対にあまり家族へ期待していないことを反映したものか傾向を明らかにするため、大人の家族へ望むことが「特になし」を選択した群と選択しなかった群別に、家庭生活満足度についてクロス集計を行った。

集計の結果、小学5年、中学2年、高校2年では、大人の家族に望むことが「特になし」を選択した群は、選択しなかった群より、家庭生活に「満足している」と回答した割合が高かった。

家族への要望「特になし」の選択状況別満足度

図 17



(3) 地域とのかかわり・地域での活動

ア 地域での活動への参加状況

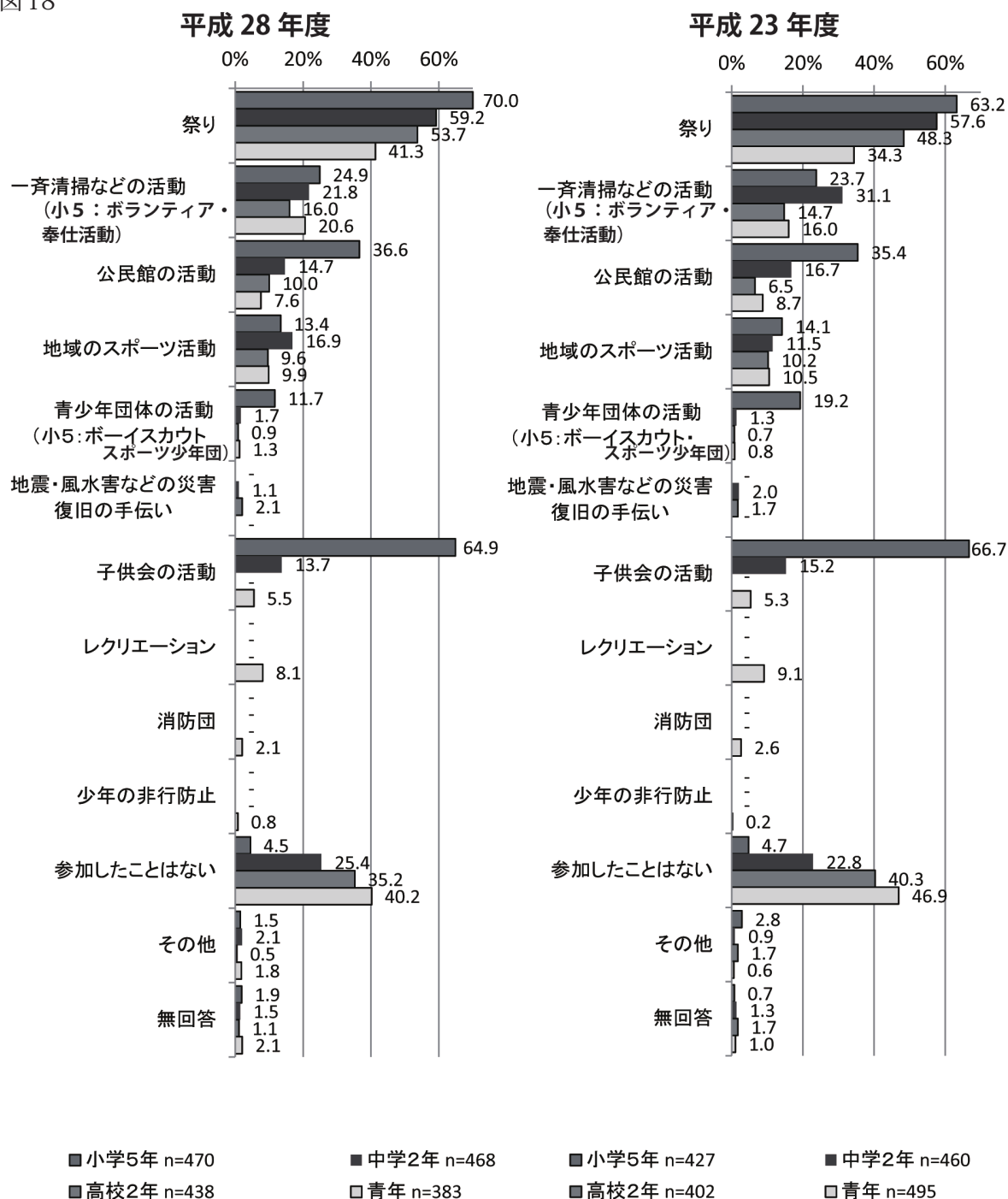
問 地域の活動の中で、この1年間にあなたが参加したものはどれですか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

全体から「参加したことはない」を除いた割合は、小学5年で約96%、中学2年で約75%、高校2年で約65%、青年で約60%であり、年代が上がるにつれ、地域活動に参加する者の割合が減少している。参加した活動の内容としては、各年代とも「祭り」への参加が最も多くなっている。

平成23年度と比較すると、高校2年及び青年で「参加したことはない」の割合が5%以上減少している。

地域での活動への参加状況

図18



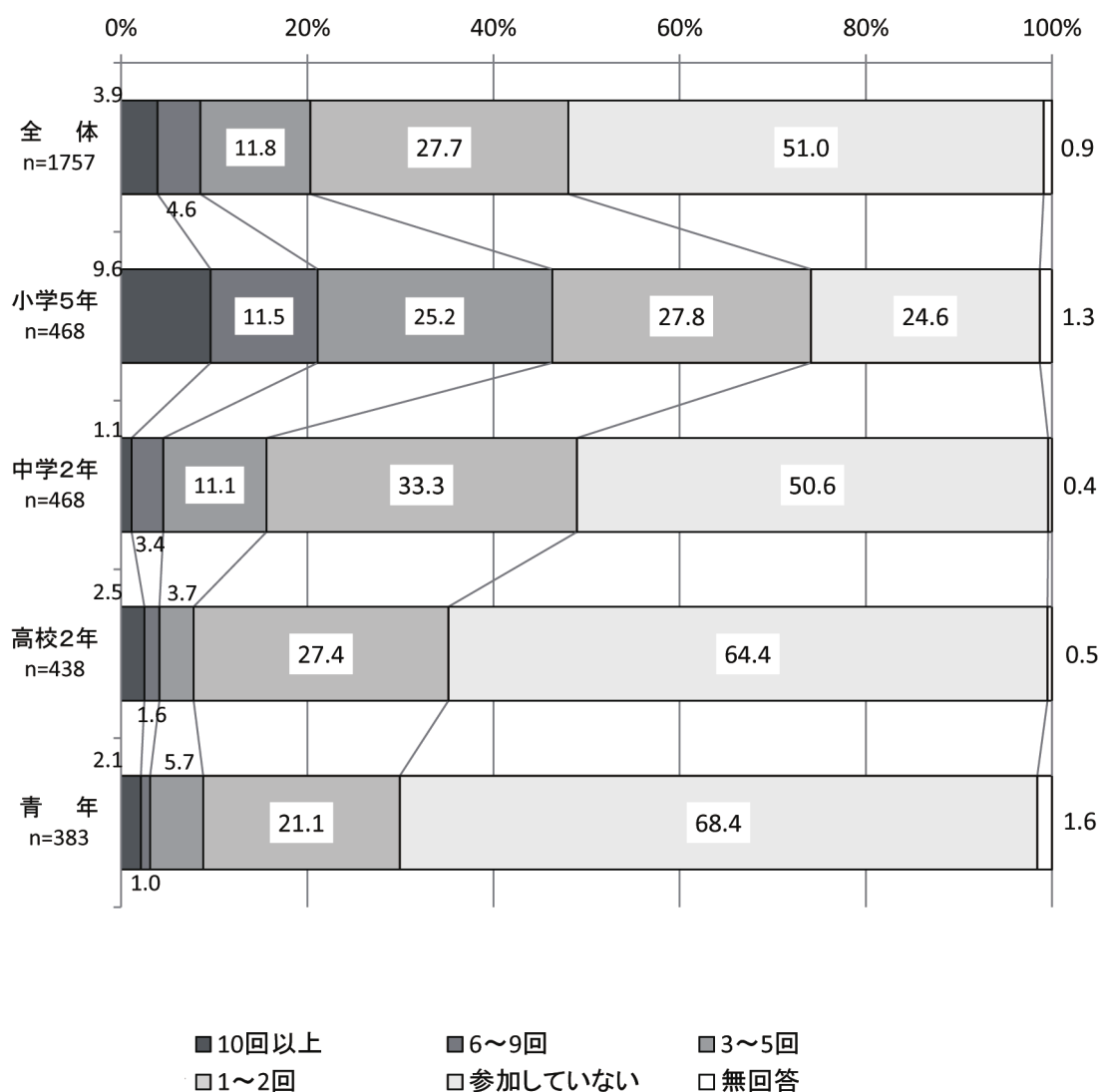
▶▶ イ ボランティアへの参加

問 あなたは、この1年間に何回程度ボランティア活動に参加しましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「参加していない」を除けば、いずれの年代でも「1～2回」の回答が2割～3割で最も多かった。1回以上参加した割合は、小学5年で約74%、中学2年で約49%、高校2年で約35%、青年で約30%と、年齢が上がるにつれ減少している。

ボランティアへの参加

図19



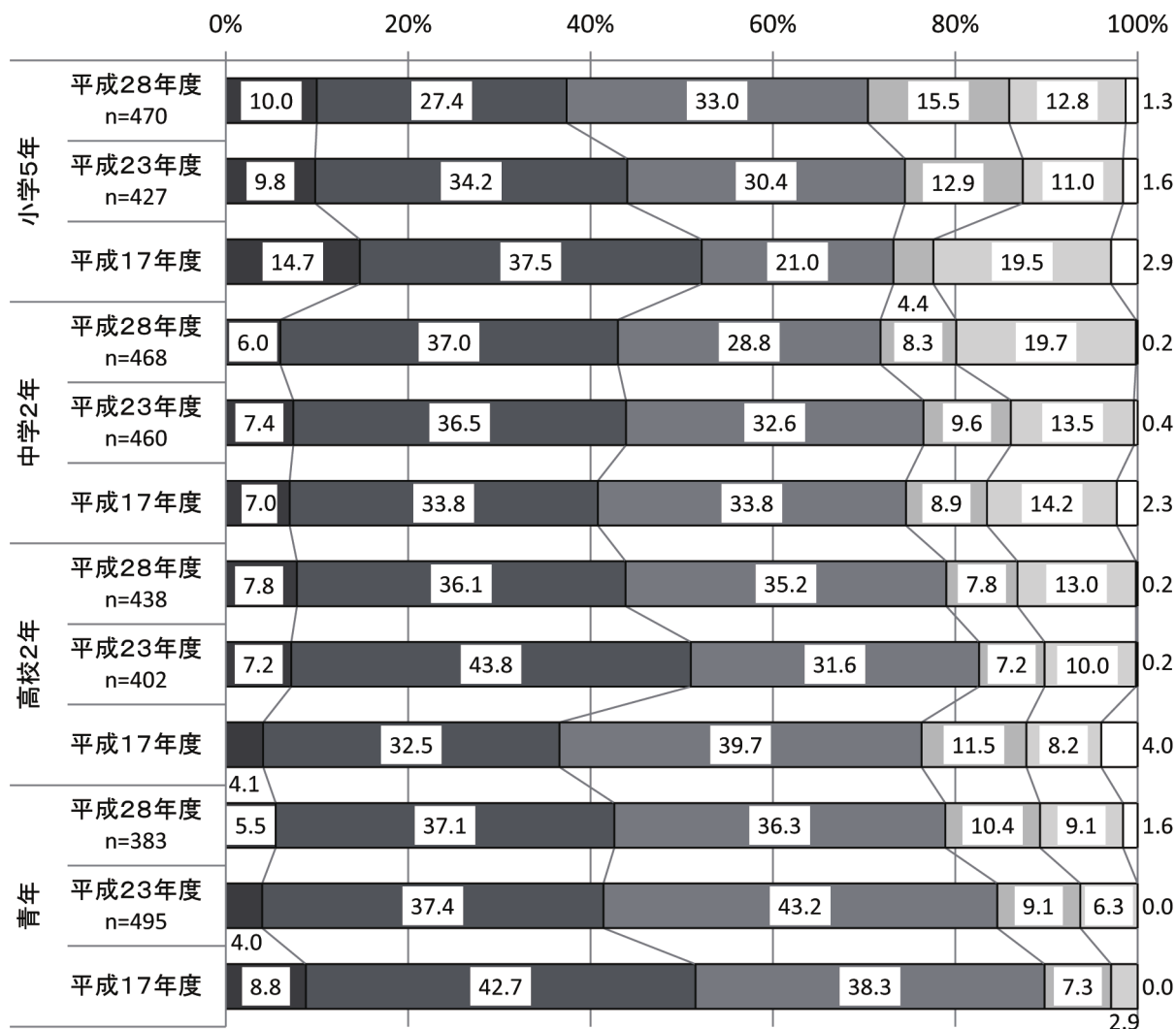
▶▶ ウ ボランティアへの関心

問 あなたは、ボランティア活動に対して、どの程度関心がありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合を平成23年度調査と比較すると、小学5年と高校2年では約7%減少している。

ボランティアへの関心

図20



- 非常に関心がある
- ある程度関心がある
- あまり関心がない
- 全く関心がない
- わからない
- 無回答

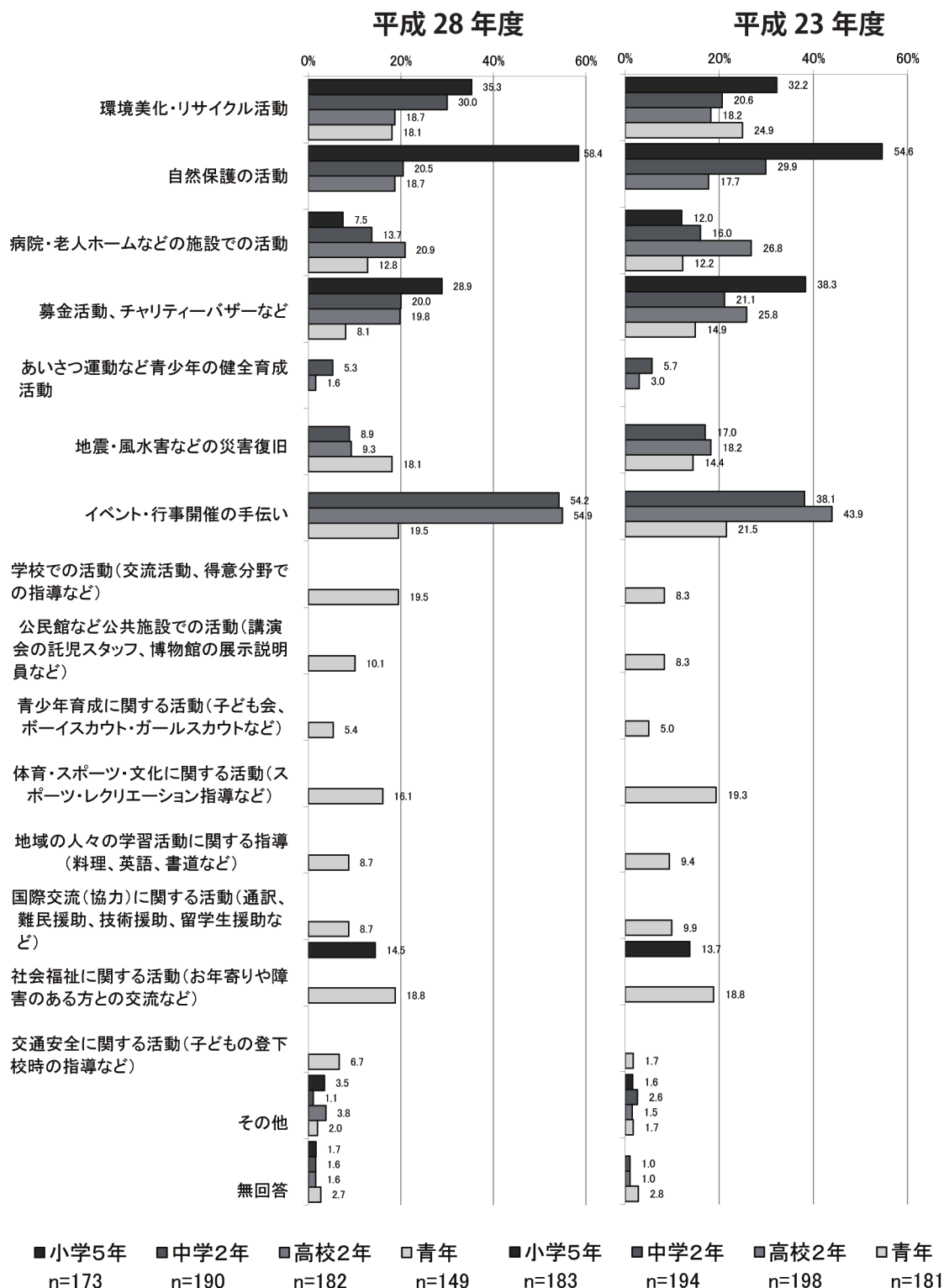
▶▶ エ 関心のあるボランティアの内容

問 質問 39(ボランティアへの関心)で、「1 非常に関心がある」、「2 ある程度関心がある」を選んだ人に質問します。今後、参加してみたいボランティア活動は、どれですか。当てはまる番号を2つまで選んで○をつけてください。

「環境美化・リサイクル活動」「自然保護の活動」「イベント・行事開催の手伝い」「病院・老人ホームなどの施設での活動」「募金活動チャリティバザーなど」が各年代とも多く上げられている。

関心のあるボランティアの内容

図21



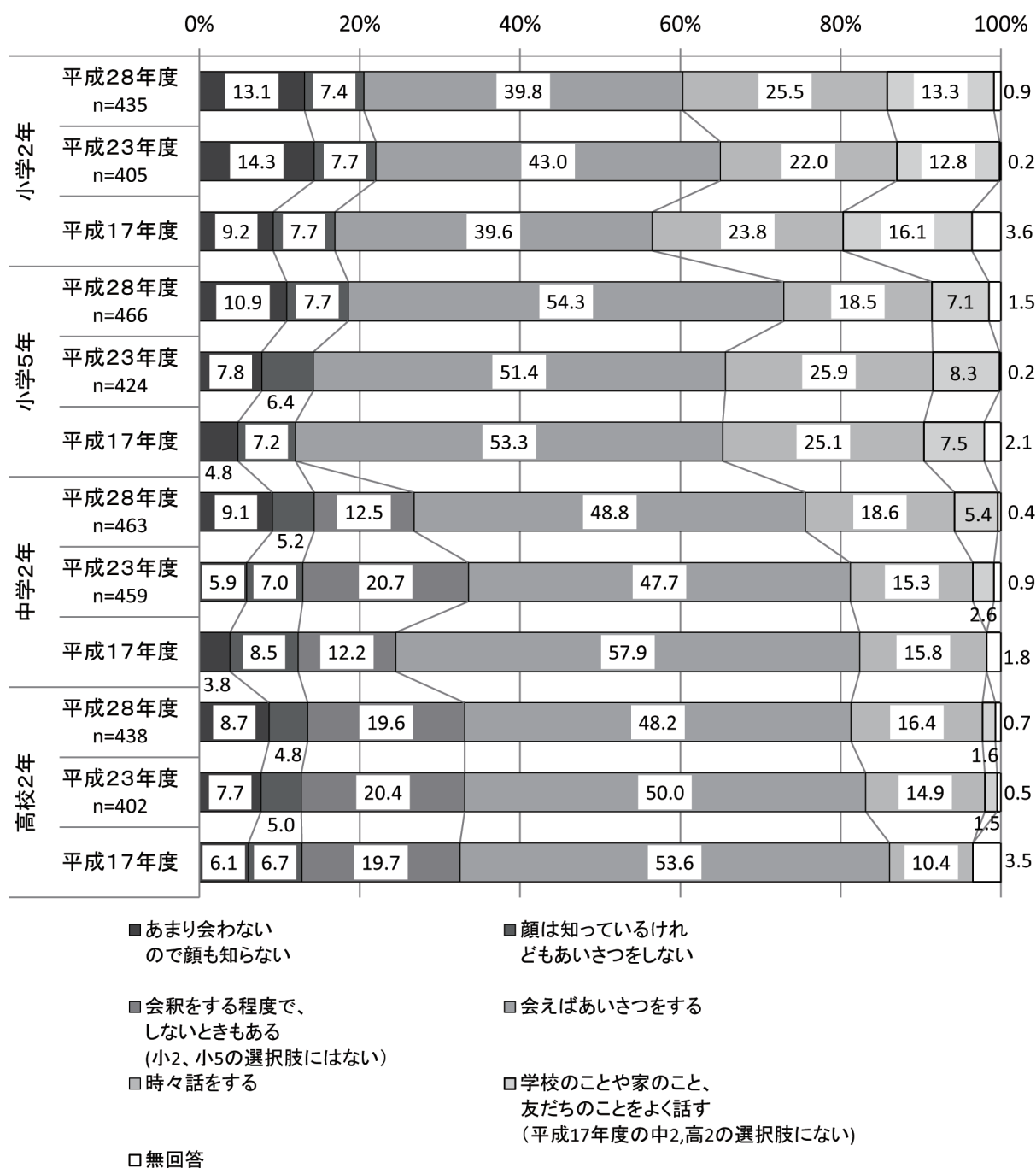
▶▶ オ 地域の大人との親しさ

問 あなたは、近所の大人とどの程度親しいですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

いずれの年代でも「会えばあいさつをする」の割合が4～5割を占めており、最も多い。
また平成23年度と比べると、小学5年以外では「ときどき話をする」の割合が増加している。

地域の大人との親しさ

図22



▶▶ カ 保護者から見た地域の子どもの親しさ

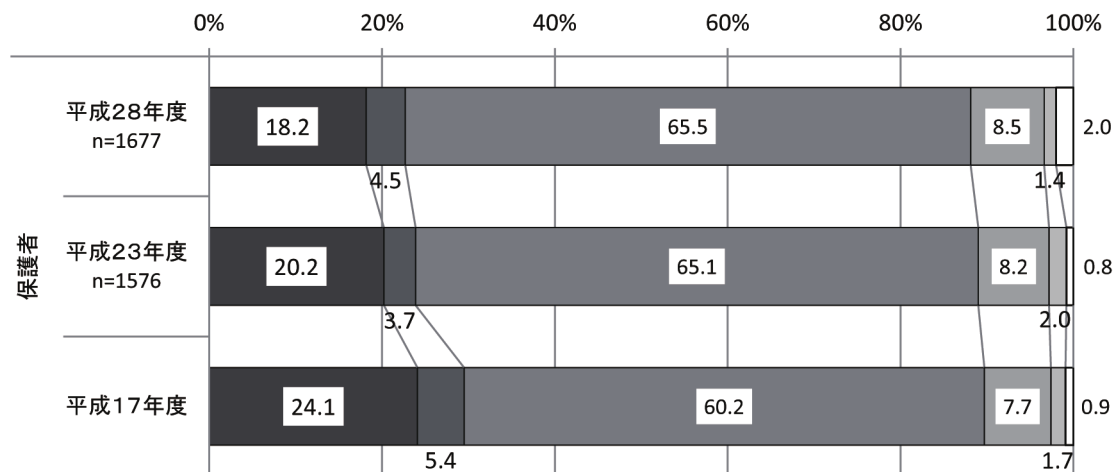
問 あなたは、近所の中学生・高校生とどんなつきあいをしていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

「会えばあいさつをする」の割合が6割以上を占めており、最も多く、平成17年度から平成23年度、平成28年度の調査にかけて、徐々に増加している。

一方、「あまり合わないから顔も知らない」の割合は徐々に減少している。

保護者から見た地域の子どもの親しさ

図23



- あまり合わないから顔も知らない
- 会えばあいさつをする
- 顔は知っているけれどもあいさつはしない
- ときどき話をする
- 学校のことや家のことなどをよく話す
- 無回答

キ 地域への居留意向

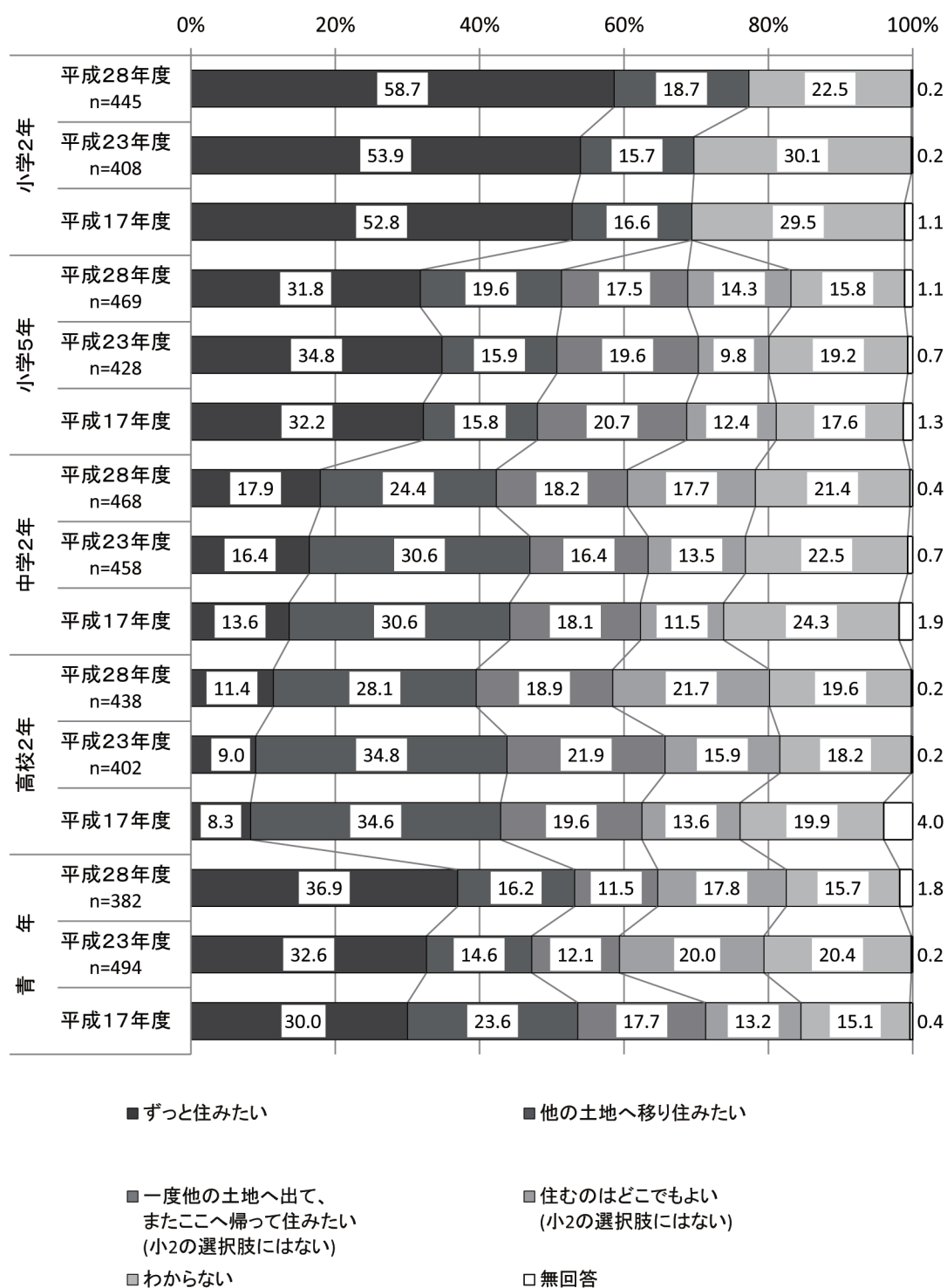
問 あなたは、今住んでいるところに、将来も住みたいと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

小学2年では「ずっと住みたい」の割合が6割程度あるが、年代が上がるに連れて割合が下がり、高校2年では1割程度となる。青年では4割程度が「ずっと住みたい」と回答している。

平成17年度、平成23年度の調査と比較すると、小学5年以外では「ずっと住みたい」の割合が増加している。

地域への居留意向

図24



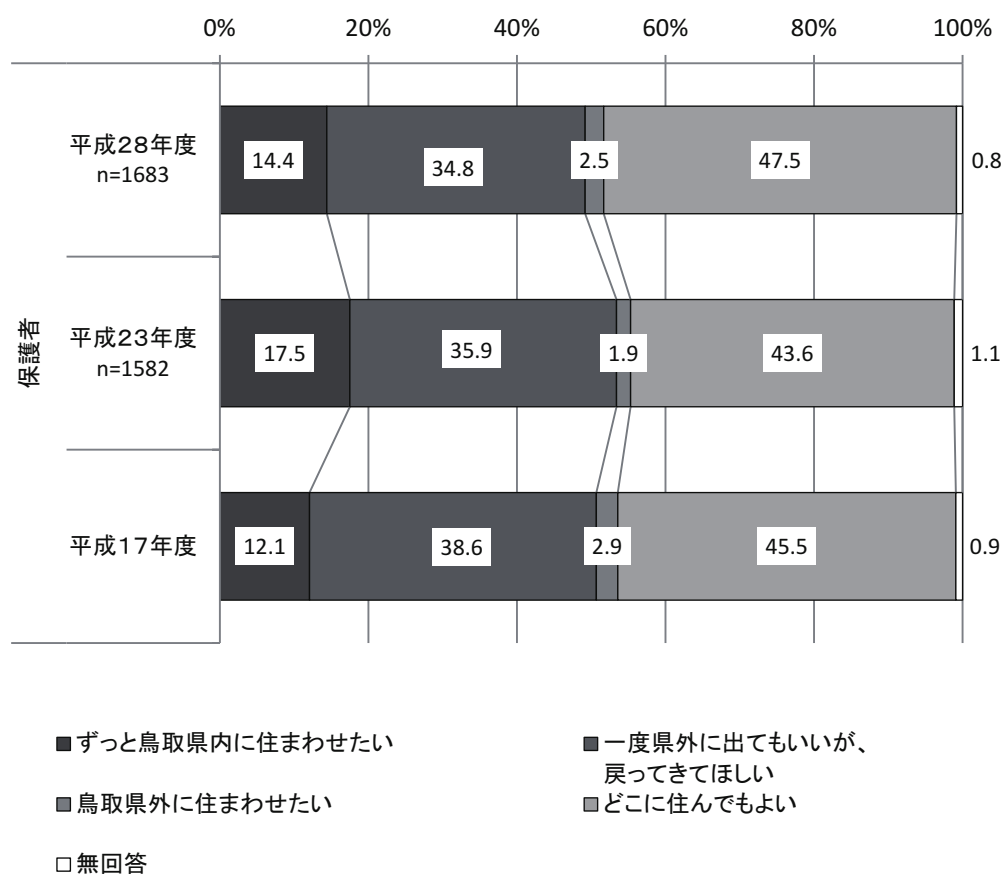
▶▶▶ ク 子どもの居住先についての保護者の意向

問 あなたは、お子さんを将来も県内に住ませたいと思いますか。当てはまる番号に1つ○をつけてください。

「ずっと鳥取県内に住ませたい」と「一度県外に出てもいいが、戻ってきてほしい」を合わせた割合は、平成17年度約51%、平成23年度約53%、平成28年度約49%であり、平成23年度に一旦増加していたが、平成28年度には平成17年度以下に減少した。

保護者の子どもの居住先についての意向

図25



▶▶ ケ 青年と保護者から見た地域の良い点

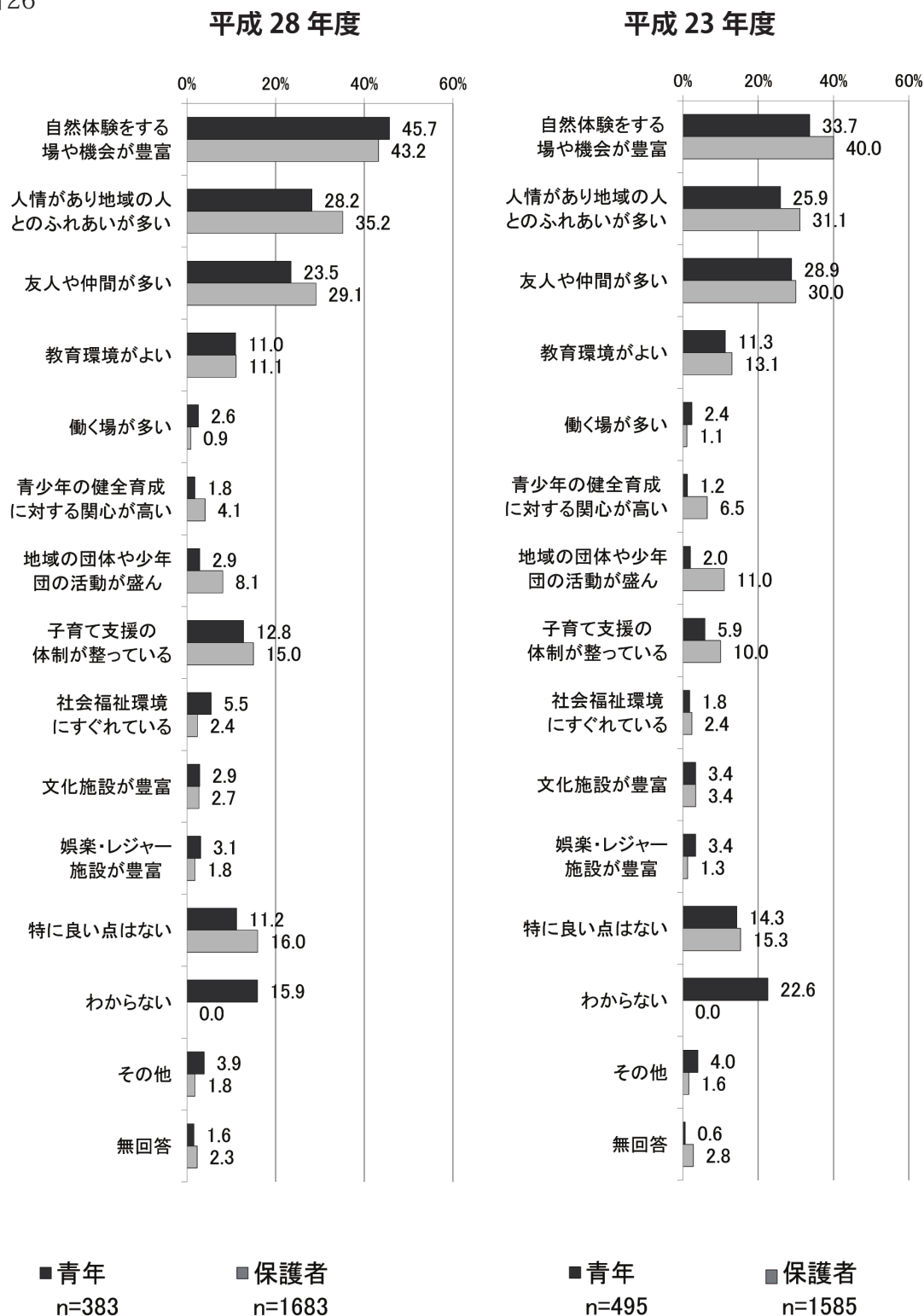
問 あなたが住んでいる地域の良い面を、次の中からいくつでも選んで○をつけてください。

青年、保護者ともに「自然体験をする場や機会が豊富」を一番多くあげている。次に「人情があり地域の人とのふれあいが多い」「友人や仲間が多い」が続いている。

平成23年度と比較すると、「自然体験をする場や機会が豊富」と「子育て支援の体制が整っている」の割合が増加している。

青年と保護者から見た地域のよい点

図26



▶▶▶ コ 選挙投票についての意識

問 (中学2年、高校2年)
 あなたは、18歳になったら選挙の投票に行きたいと思いますか。当てはまる番号に一つ○をつけてください。
 (青年)
 あなたは、選挙の投票を通じて国や地域の政策決定に参加することに関心がありますか。当てはまる番号に1つ○をつけてください。

「必ず行く」と「なるべく行く」の合計は中学2年、高校2年のそれぞれ7割弱であった。
 また青年に対し選挙投票を通じた地域の政策決定への参加についての意識を尋ねたところ、6割弱が「関心がある（非常に関心がある、ある程度関心があるの合計）」と回答した一方、「関心がない（あまり関心がない、全く関心がないの合計）」と回答した割合も4割弱あった。

選挙投票についての意識

図27

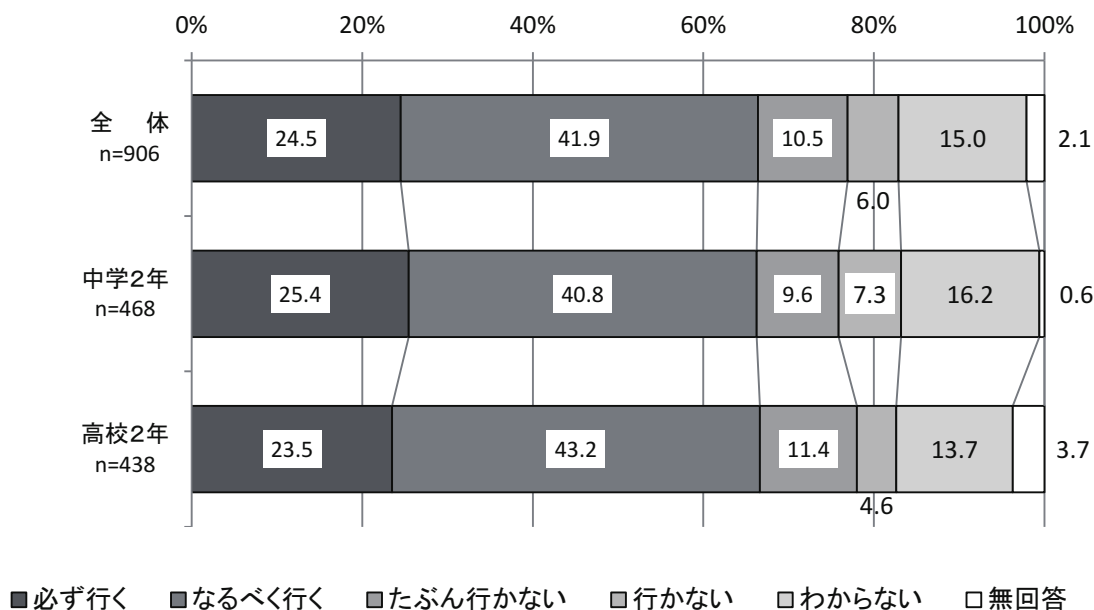
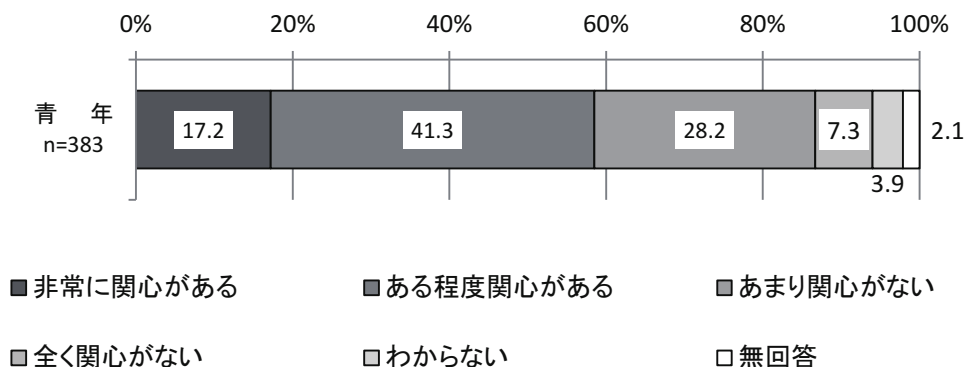


図28



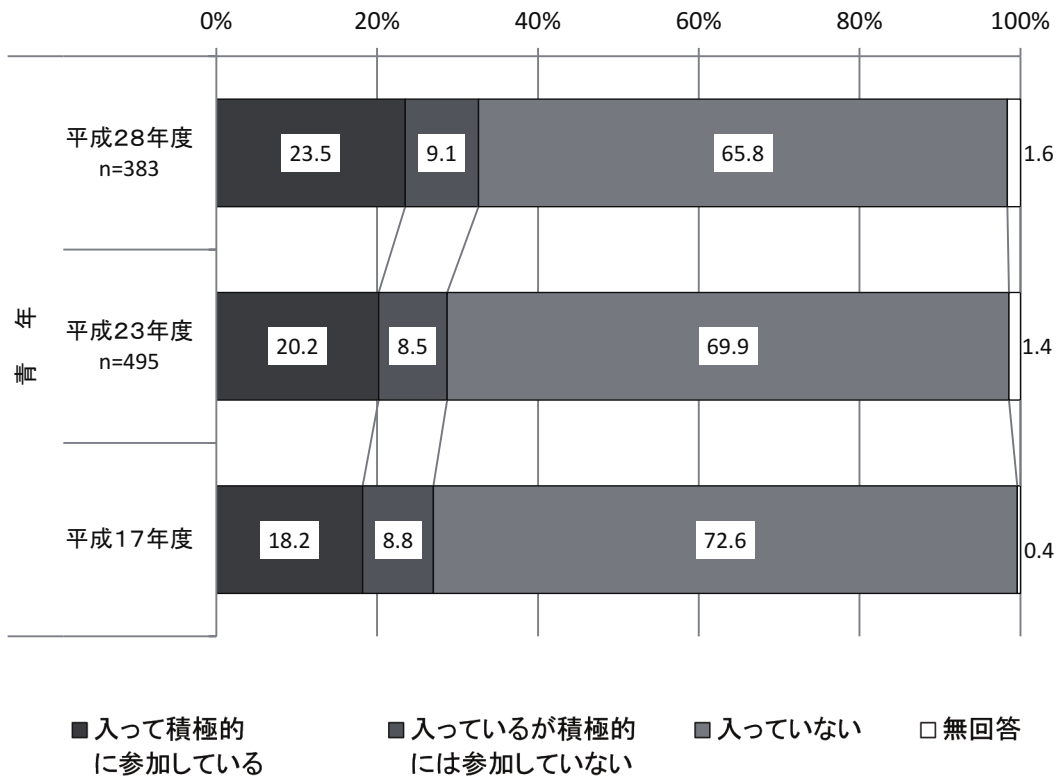
▶▶ サ 青年のサークル活動への参加

問 あなたは、仕事以外で、何か団体、グループ、サークルなどに入っていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

平成17年度から比較して、「入って積極的に参加している」の割合が徐々に増加している。

青年のサークル活動への参加

図29



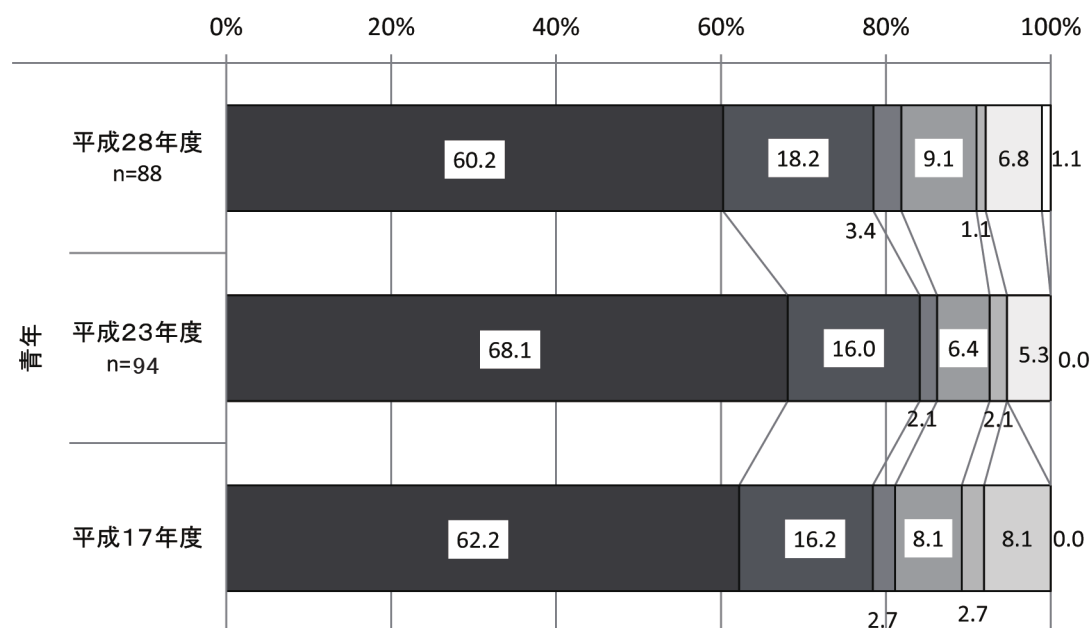
シ 青年が参加するサークル活動の内容

問 質問 32（青年のサークル活動への参加）で「1 入って積極的に参加している」に○をつけられた方のみお答えください。
その団体・グループ・サークルなどは具体的にはどのような内容の活動をしていますか。あなたが特に力を入れているものを次の中から1つ選んで○をつけてください。

平成17年度、平成23年度、平成28年度いずれの調査においても、「スポーツ」の割合が6割を超えている。

青年が参加するサークル活動の内容

図30



- スポーツ
- 趣味・教養
- 親睦・情報交換
- 職業のための技術訓練 (3年度とも選択0)
- 社会奉仕活動
(ボランティア、青少年育成指導)
- 祭りの開催
- 宗教活動
(平成23年度、平成28年度の選択肢にはない)
- その他
- 無回答

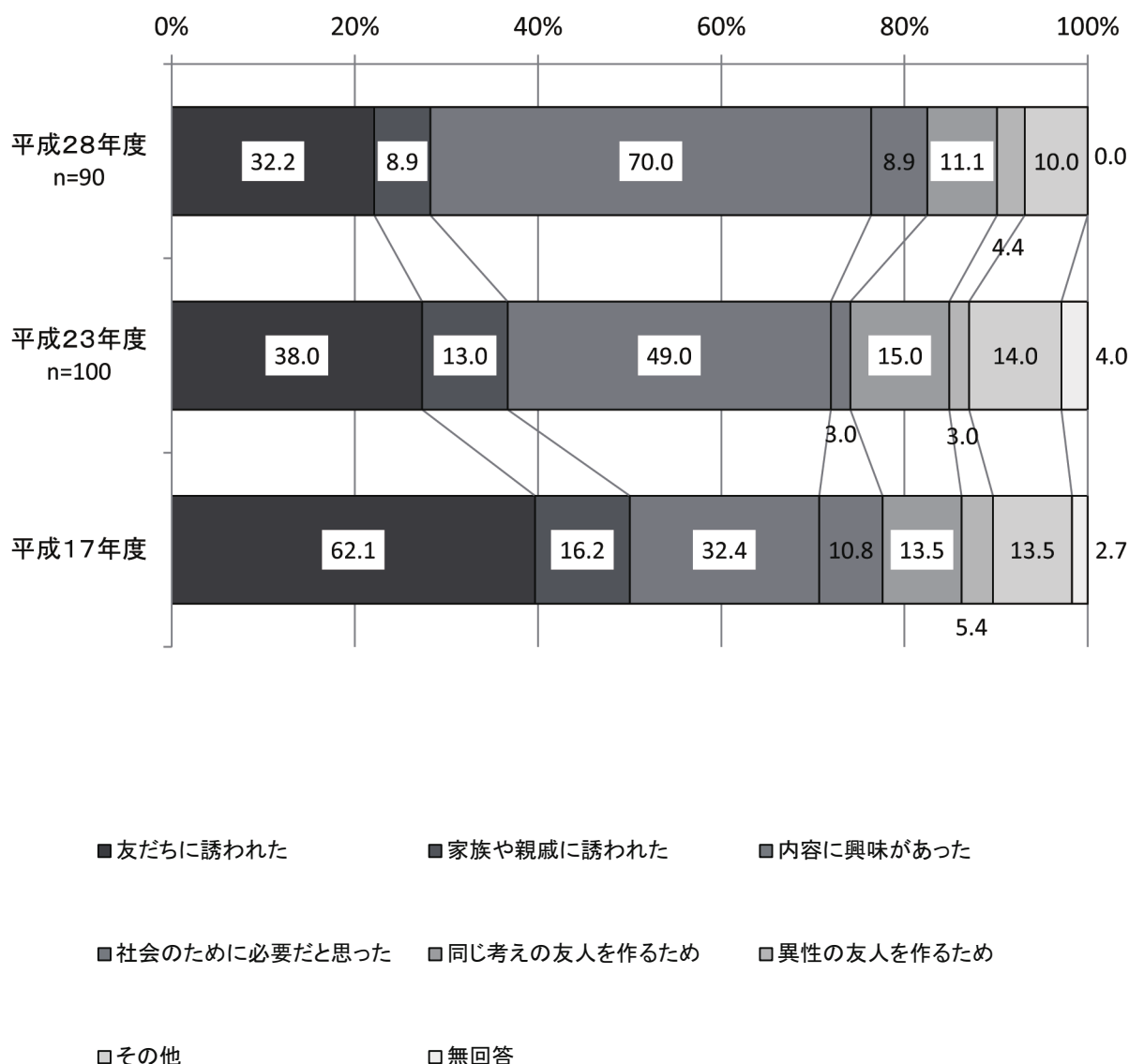
▶▶ ス 青年のサークル活動参加のきっかけ

問 質問 32（青年のサークル活動への参加）で「1 入って積極的に参加している」に○をつけられた方のみお答えください。
その団体・グループ・サークルに入ったきっかけは何ですか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

「友だちに誘われた」が平成17年度の約62%から、平成23年度は約38%、平成28年度は約32%へと減少している。一方、「内容に興味があった」が平成17年度の約32%から、平成23年度は49%、平成28年度は70%へと増加している。

青年のサークル活動参加のきっかけ

図31



(4) 友人関係

ア 友だちの有無

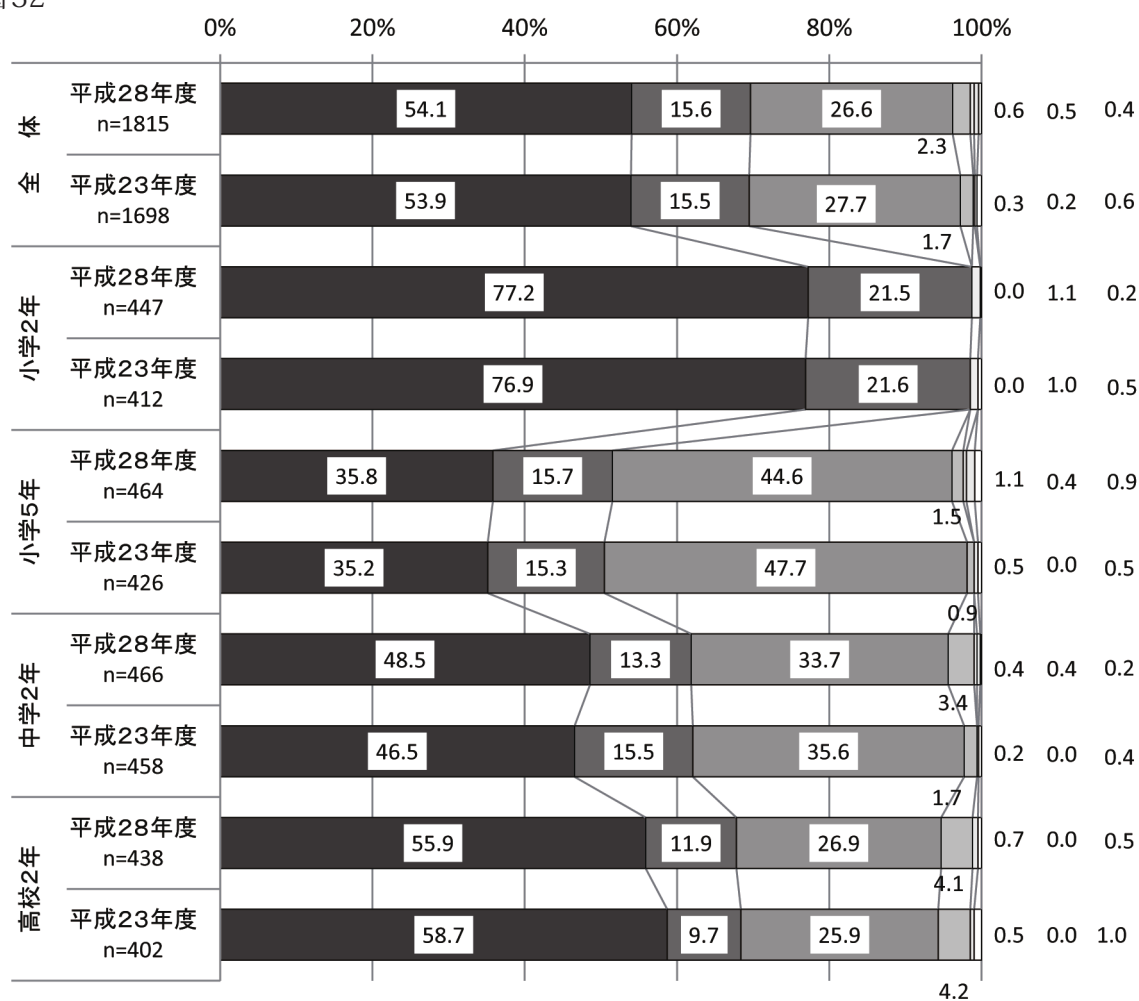
問 あなたには友だちがいますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

年代別に見ていくと、「親友（どんなことでも話せる友だち）がいる」の割合がもっとも高かったのは、小学2年で7割以上である。また、「親友も遊び友だちもいる」の割合が最も高かったのは、小学5年で約5割である。どの年代でも「親友（どんなことでも話せる友だち）がいる」と「親友はいないが、遊び友だちならいる」、「親友も遊び友だちもいる」を合わせると、9割以上である。

平成23年度と平成28年度では調査結果に大きな違いは見られない。

友だちの有無

図32



- 親友（どんなことでも話せる友だち）がいる
- 親友も遊び友だちもいる
- 今は友だちはいないが、これからつくりたい
- 無回答
- 親友はいないが、遊び友だちならいる
- 親友や遊び友だちはいないが、少し話をする程度の友だちならいる
- 今も友だちはいないが、これからはもらない

(注)小学2年の選択肢は「■ すごく仲良しの友だちがいる」「■ 普通に仲良しの友だちがいる」「□ 友だちは今はいない」

▶▶ イ 友だちになったきっかけ

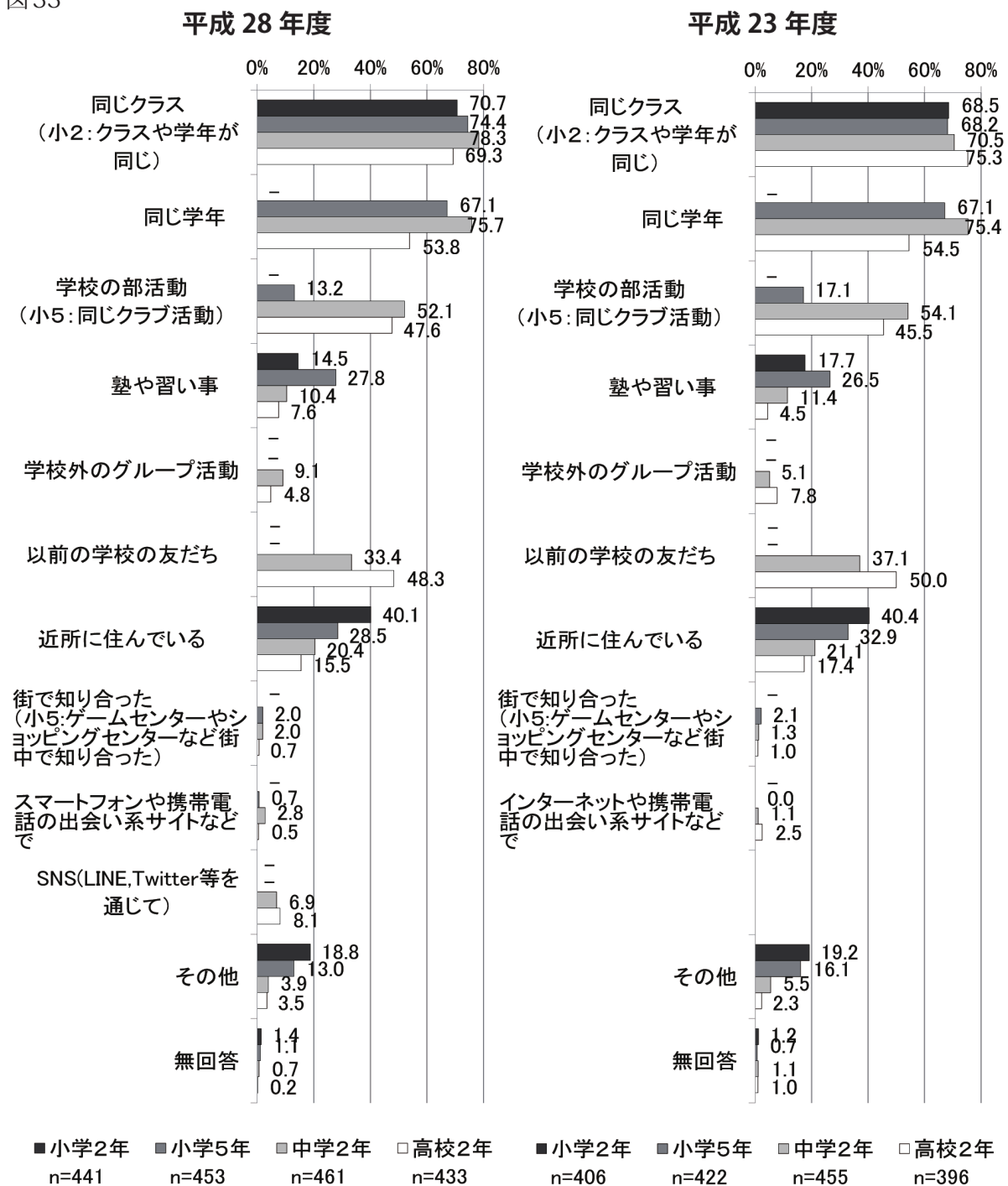
問 質問 10（友だちの有無）で、「親友（どんなことでも話せる友だち）がいる」、「親友はいないが、遊び友だちならいる」、「親友も遊び友だちもいる」、「親友や遊び友だちはいないが、少し話をする程度の友だちならいる」を選んだ人に質問します。どんなきっかけで友だちになりましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

いずれの年代においても友だちになったきっかけとして、「同じクラス」「同じ学年」の占める割合が高い。中学2年、高校2年では、「近所に住んでいる」の割合が減少し、「学校の部活動」「以前の学校の友だち」の割合が増加している。

平成28年度調査で追加した選択肢「SNS（LINE、Twitter等を通じて）」を選んだ中学2年は約7%、高校2年は約8%であった。

友だちになったきっかけ

図33



(5) 生活

ア 基本的生活習慣の状況

問 (小学2年・小学5年・中学2年・高校2年・青年)
 あなたは下記のことをどの程度していますか。それぞれ当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。
 (保護者)
 お子さんの日常生活について、下記について、一番近いと思う番号に1つ○をつけてください。(○は各項目につきひとつ)

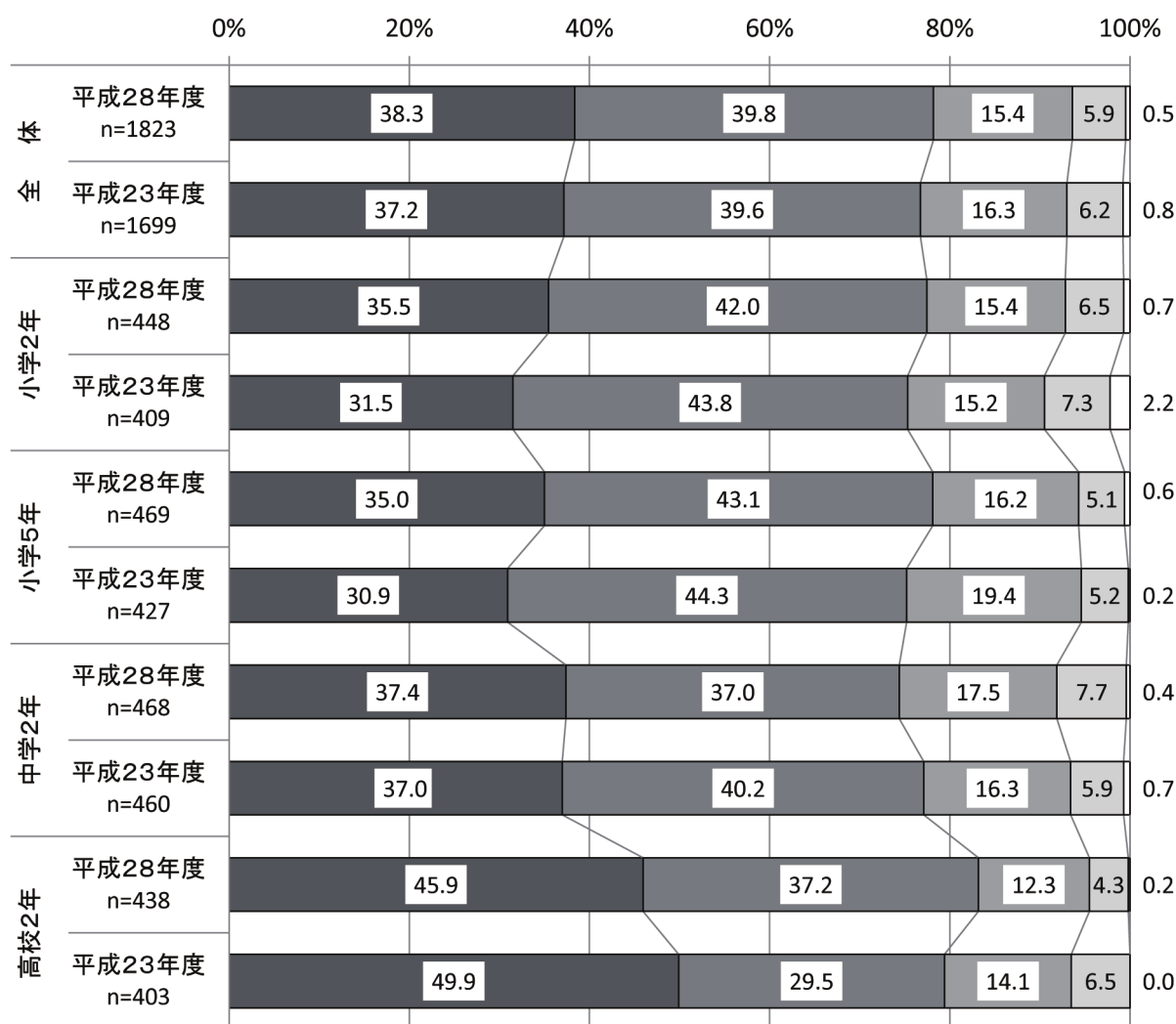
(ア) 朝起きる時、自分一人で起きる

「よくできる」と「ときどきできる」の合計は、いずれの年代でも7割を超えている。

「よくできる」の割合は、年齢が上がるにつれ、増加している。

平成23年度調査と平成28年度調査の結果では大きな変化は見られない。

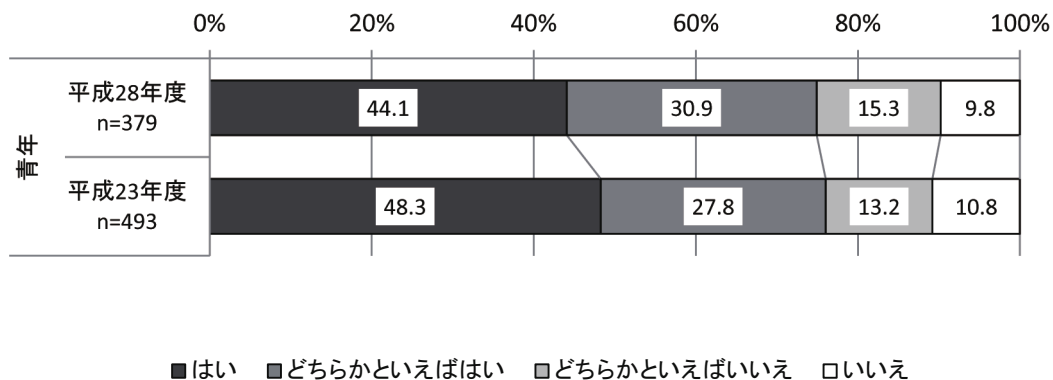
図34



■よくできる ■時々できる ■あまりできない □全然できない □無回答

(ア) 朝、決まった時間に起きられる (青年)

図35

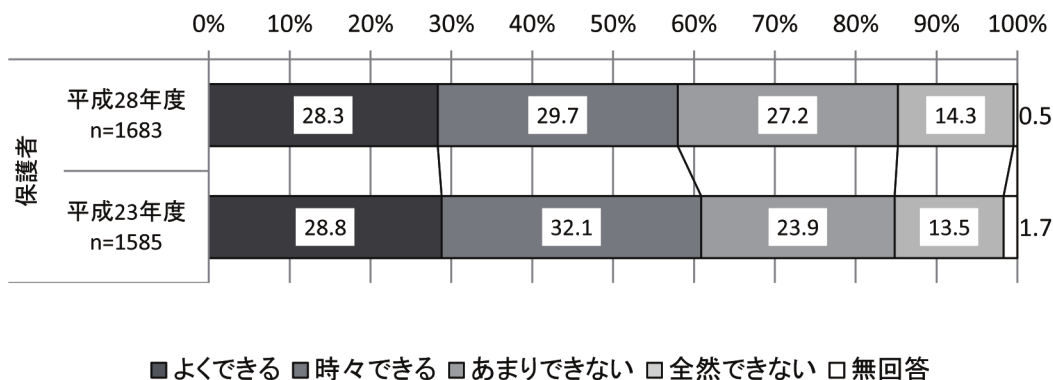


(n 値は、無回答を除いたもの)

(ア) 朝、自分で起きる (保護者)

保護者から見て、子が朝自分で起きることについて「よくできる」と「ときどきできる」とした割合を合計すると6割弱で、子自身の回答と比べ1割程度低くなっている。

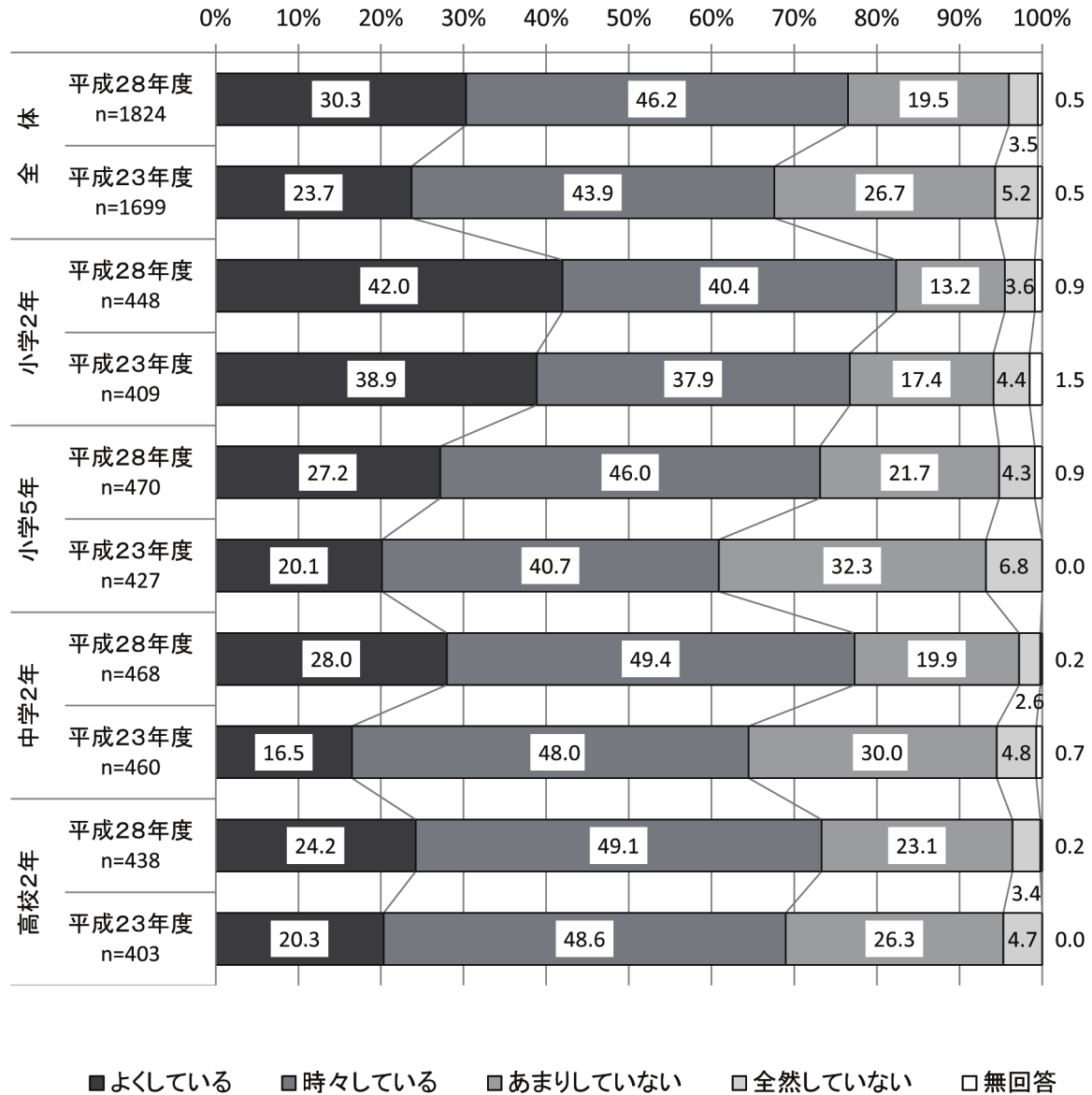
図36



(イ) 身の回りや部屋のかたづけをする

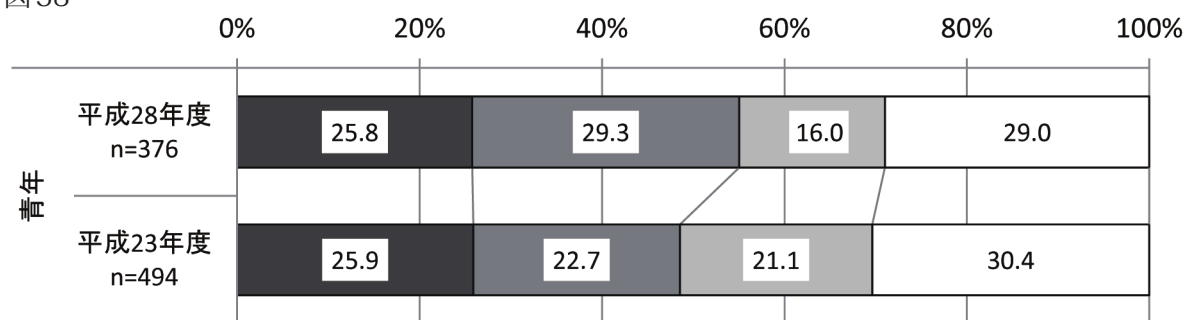
平成23年度の調査結果と平成28年度の調査結果を比較すると、「よくしている」と「ときどきしている」を合計した割合はいずれの年代でも増加している。

図37



(イ) 食事や掃除は親まかせである (青年)

図38



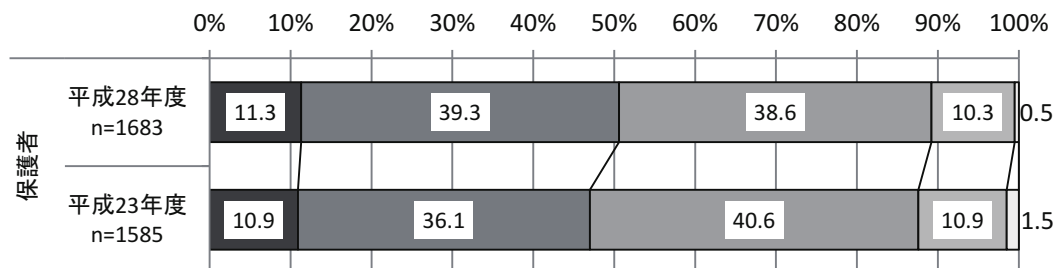
■はい ■どちらかといえばはい ■どちらかといえばいいえ □いいえ

(n 値は、無回答を除いたもの)

(イ) 身の回りや部屋のかたづけをする (保護者)

「よくしている」と「ときどきしている」を合計した割合は、平成23年度と比べ保護者の回答においても増加している。

図39

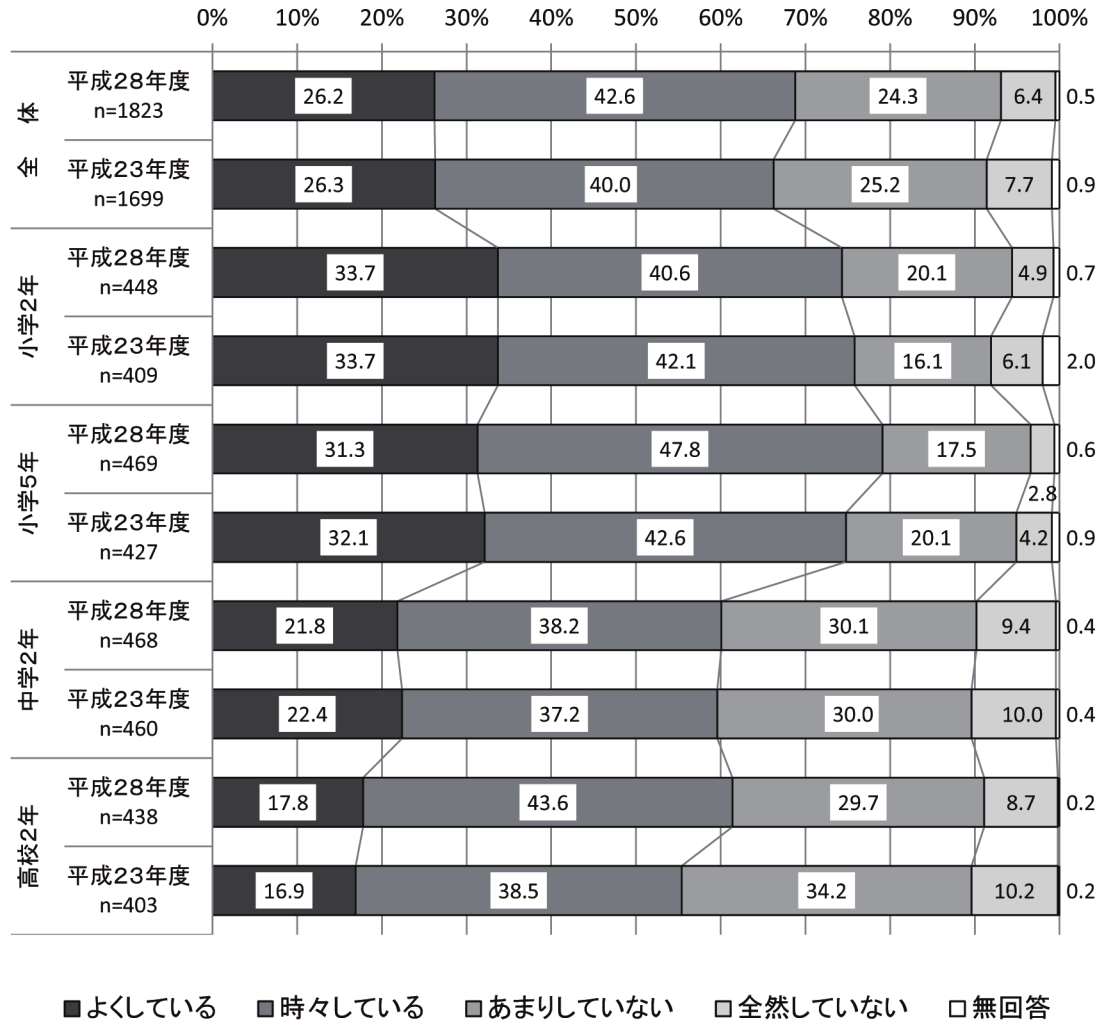


■よくしている ■時々している ■あまりしていない ■全然していない □無回答

(ウ) 家の手伝いをする

「よくしている」の割合は、年代が上がるにつれ減少している。「よくしている」と「ときどきしている」を合計した割合は、子ども全体の平均で約69%であった。

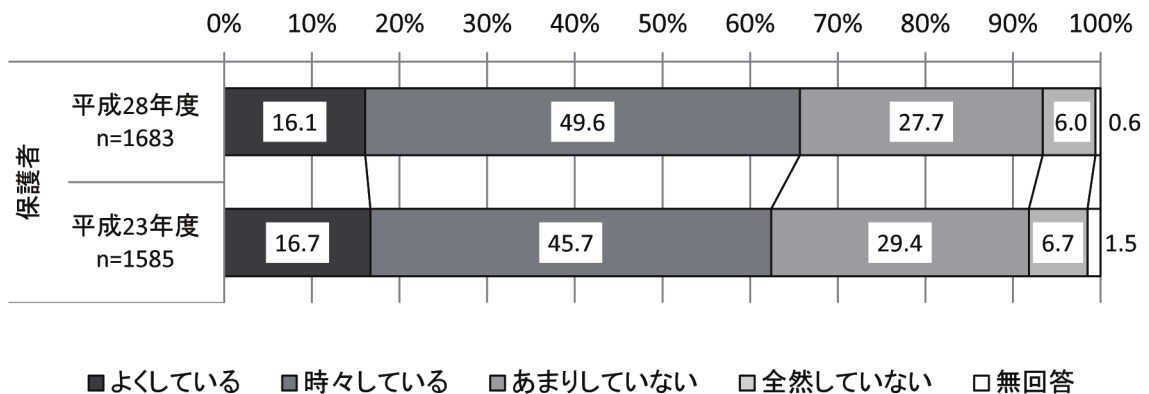
図40



(ウ) 家の手伝いをする (保護者)

保護者から見て、子どもが家の手伝いを「よくしている」「ときどきしている」とした割合は約66%で、子ども全体の平均と同程度であった。

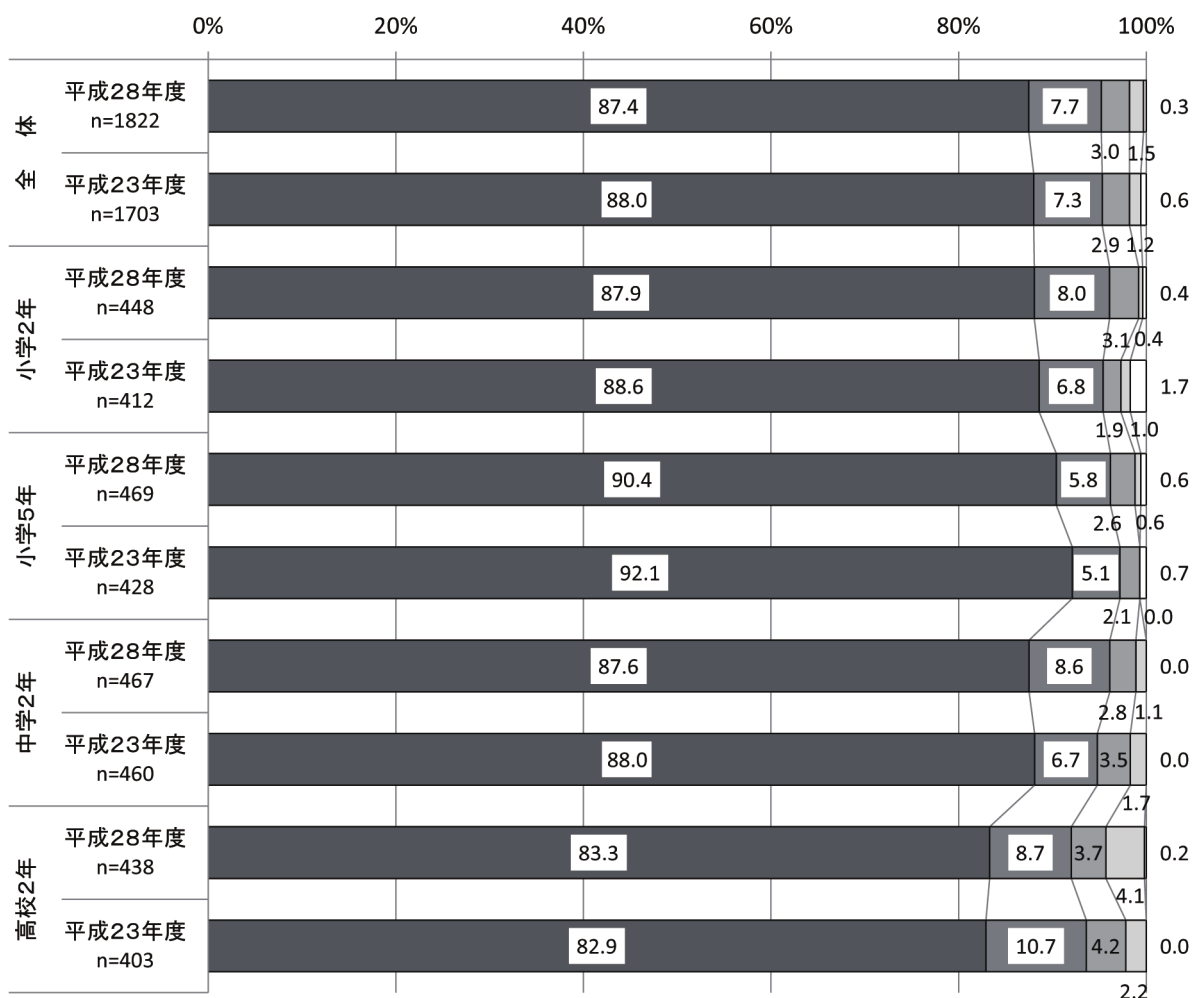
図41



(工) 朝ご飯を食べる

どの年代でも「毎日食べている」と回答しているのはそれぞれ8割以上である。「ときどき食べている」と合わせると9割を超えている。

図42

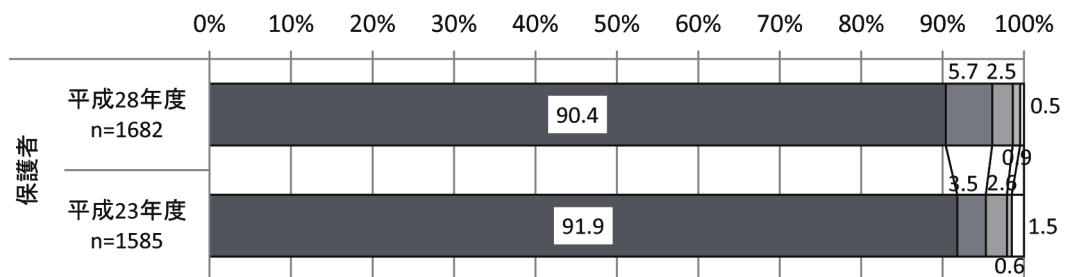


■毎日食べている ■時々食べている ■あまり食べていない □いつも食べていない □無回答

(工) 朝ご飯を食べる (保護者)

保護者から見た場合、9割以上が子どもが朝ご飯を「毎日食べている」と回答している。

図43



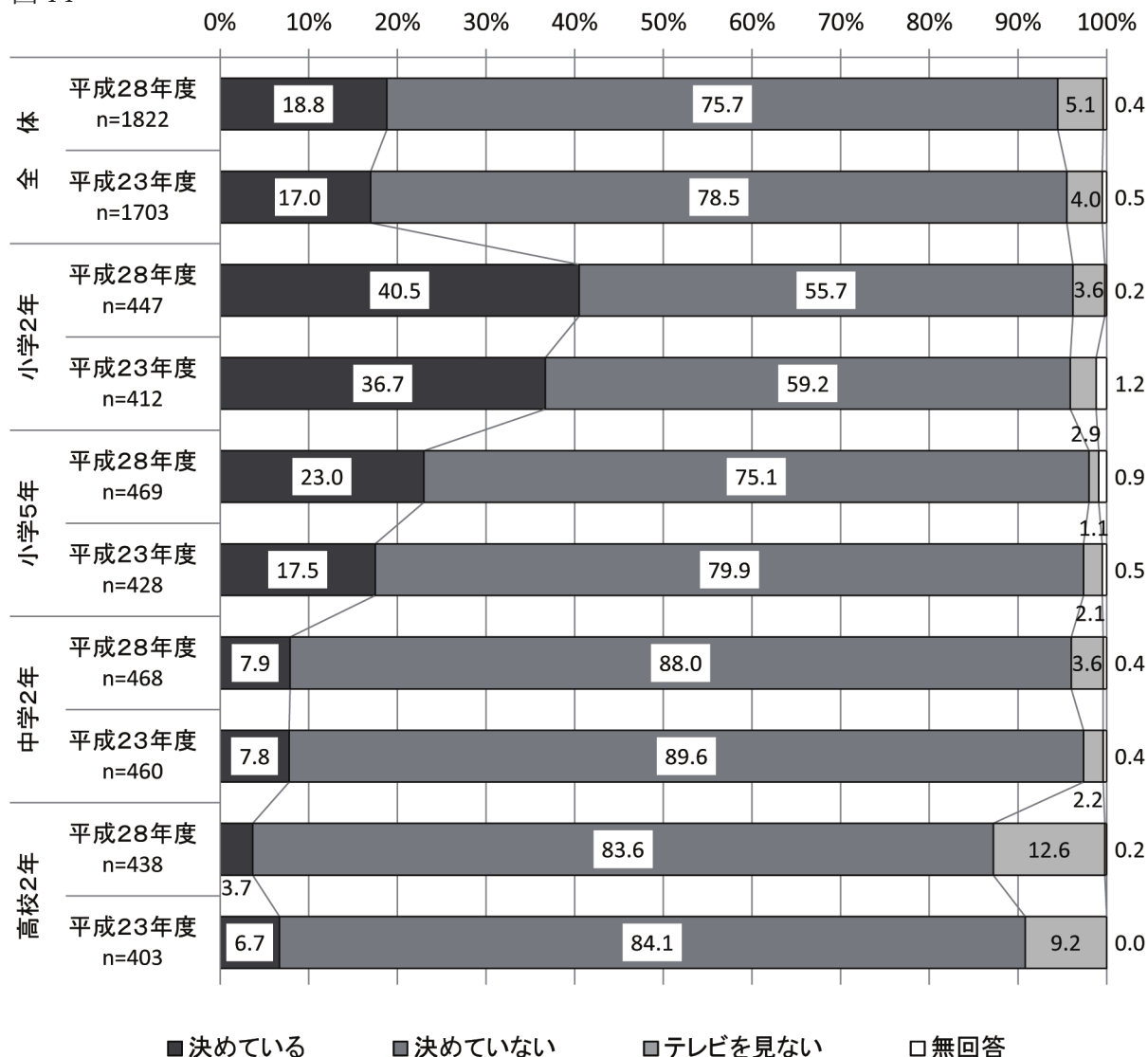
■毎日食べている ■時々食べている ■あまり食べていない □いつも食べていない □無回答

(オ) テレビを見る時間を決めている

年齢が高くなるにしたがい、「決めている」の割合が低くなっている。また、「決めていない」と一番多く回答したのは中学2年であり、高校2年、小学5年と続いている。子ども全体の平均では「決めていない」の割合が7割以上であった。高校2年は「テレビを見ない」と回答した生徒が約1割いる。

平成23年度調査と比べると、小学2年、小学5年では「決めている」の割合が増加している。

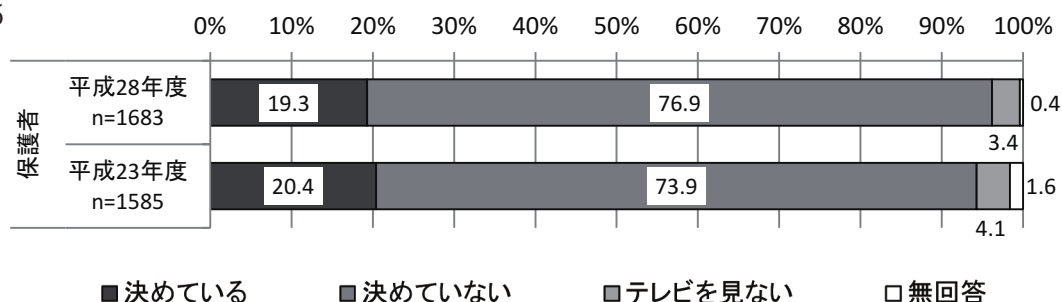
図44



(オ) テレビを見る時間を決めている (保護者)

保護者から見た場合でも「決めていない」の割合が7割以上である。その割合は平成23年度と比較して僅かに増加している。

図45

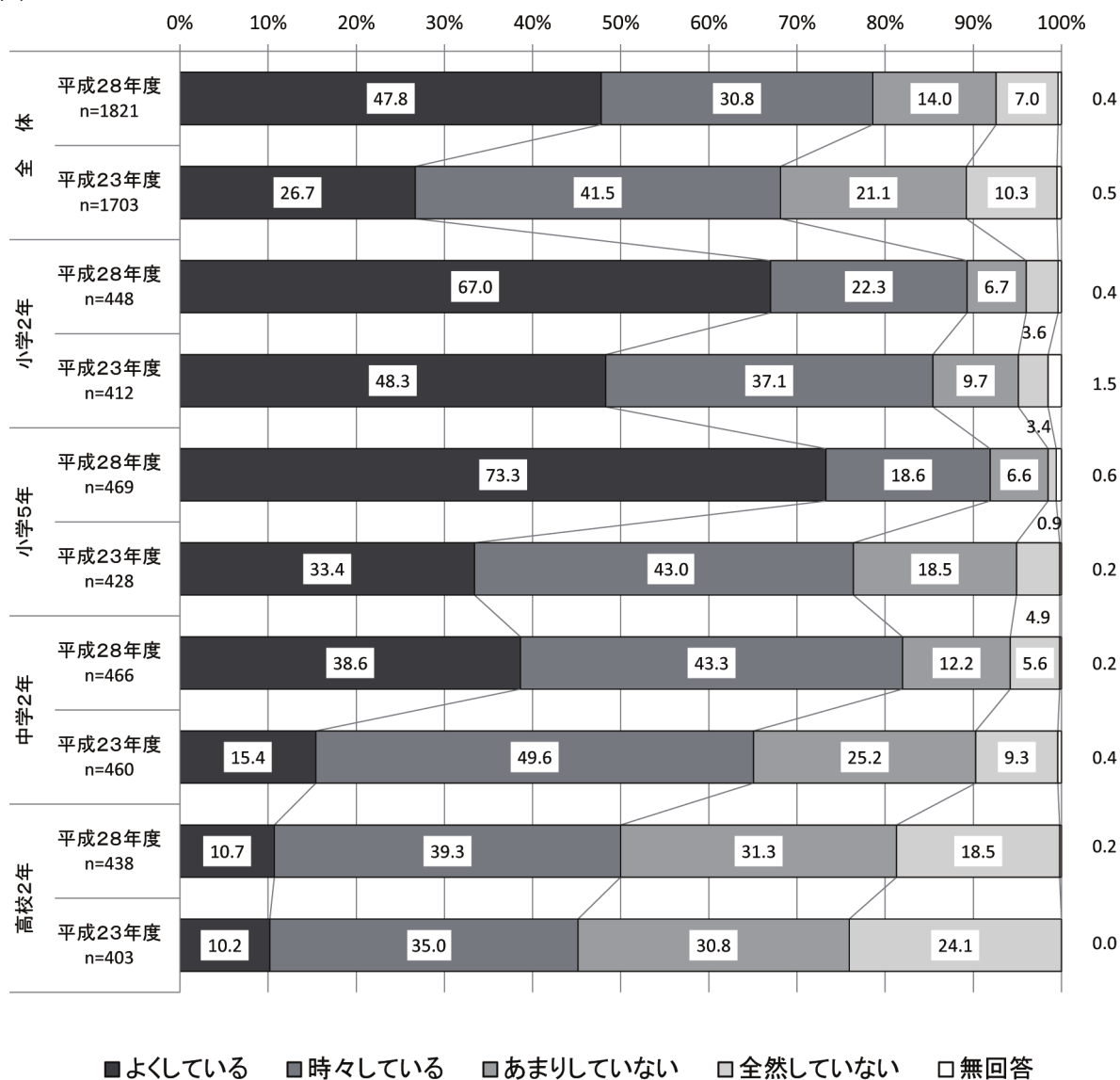


(力) 家で勉強する

「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた割合は小学5年から中学2年、高校2年と年代が上がるにしたがい低くなっている。

子ども全体の平均では「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた割合は約8割であった。(平成23年度は、「進んで勉強する」)

図46

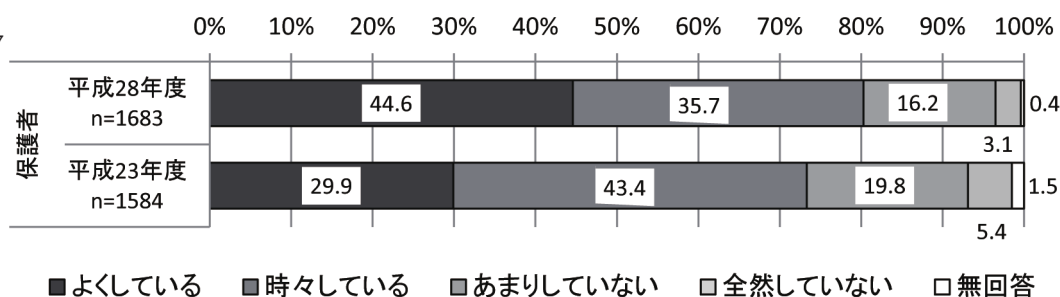


(力) 家で勉強する (保護者)

「よくしている」「ときどきしている」を選んだ割合が約8割あり、「家で勉強する」ことについて、子どもと保護者が同程度の認識をもっている。

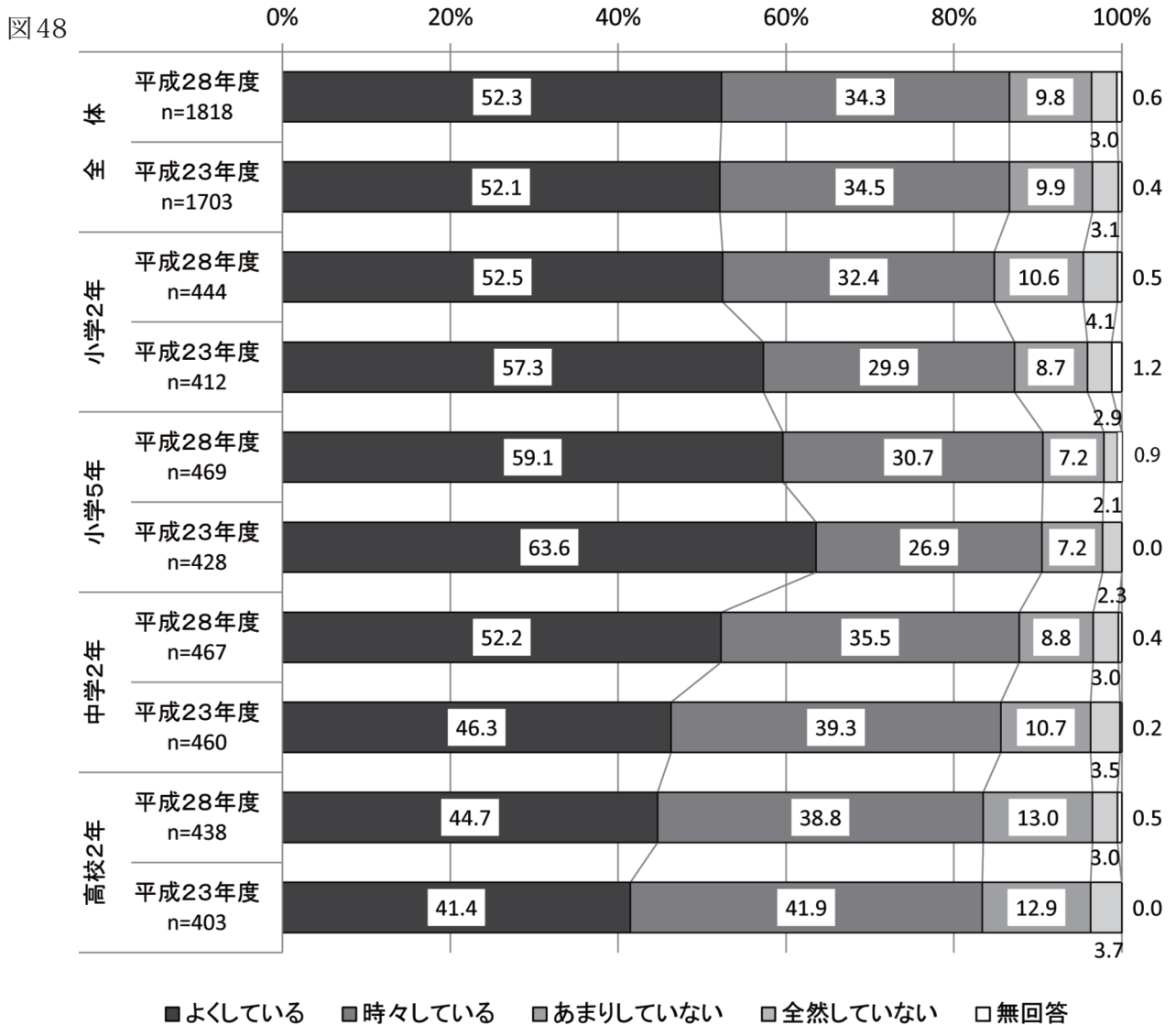
(平成23年度は、「進んで勉強する」)

図47



(キ) 近所の人や知り合いにあいさつする

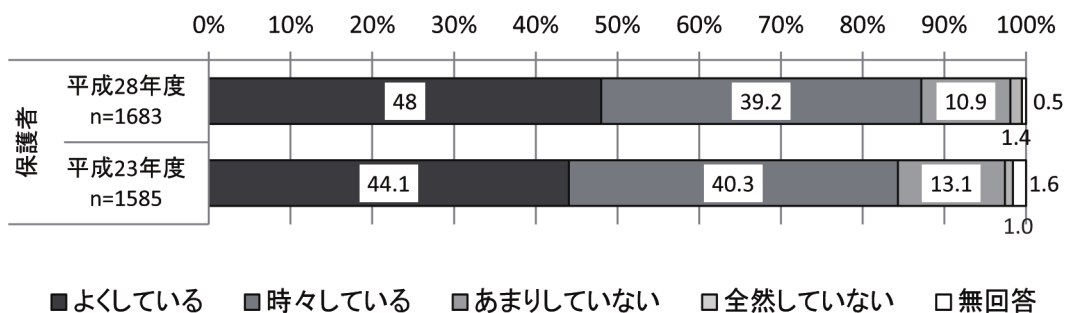
どの年代でも、「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた割合は8割を超えている。平成23年度と比較すると、「よくしている」の割合は小学2年と小学5年で減少している一方、中学2年と高校2年で増加している。



(キ) 近所の人や知り合いにあいさつする (保護者)

平成23年度と比べ、「よくしている」の割合が増加している。

図49



イ こづかいの使途

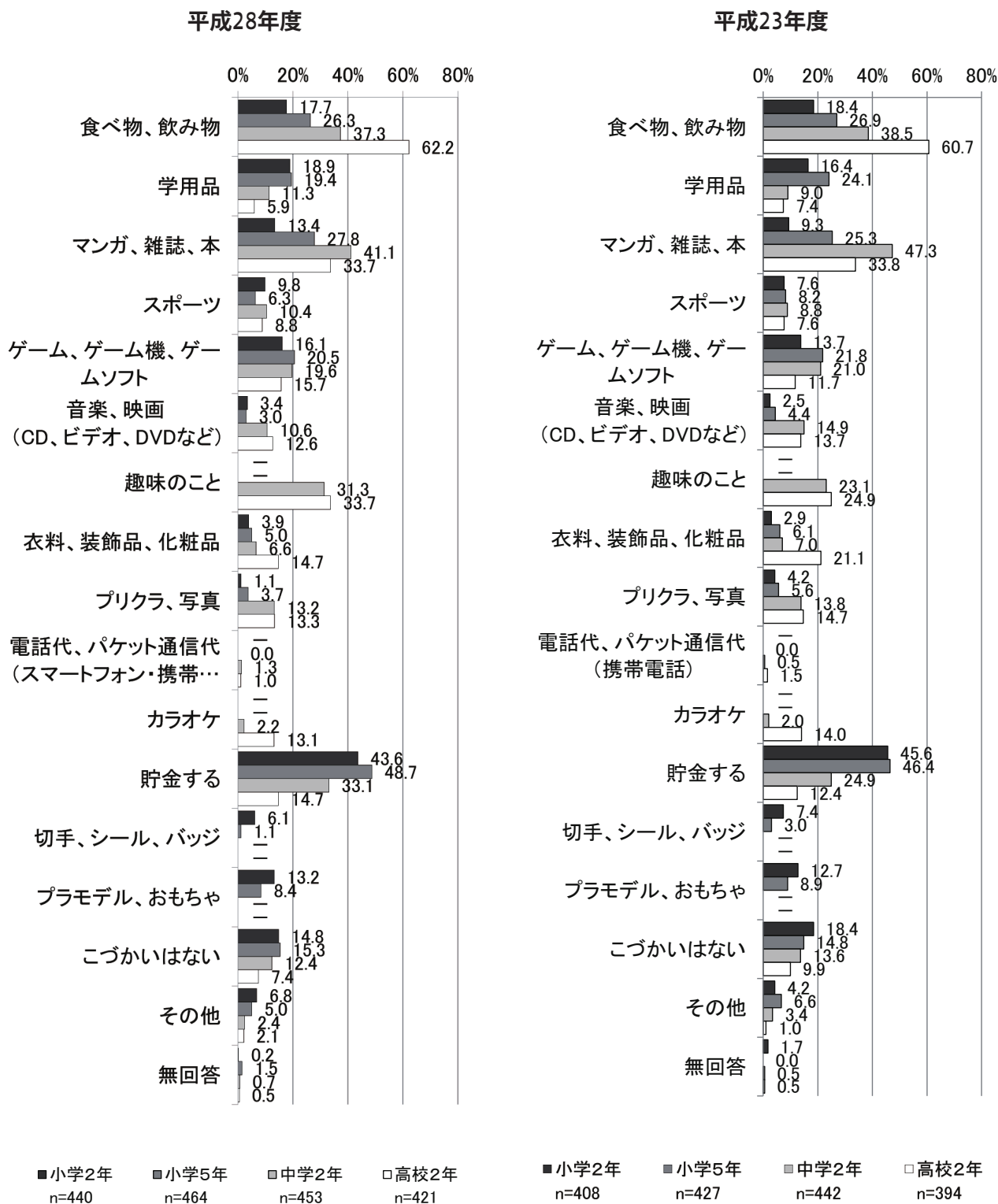
問 あなたは、こづかいを、主にどのように使っていますか。多く使うものの番号を3つまで選んで○をつけてください。

年代別に見ると、小学2年と小学5年で一番多いのは「貯金する」であり、中学2年で一番多いのは「マンガ、雑誌、本」、高校2年で一番多いのは「食べ物、飲み物」である。

平成23年度調査結果と比べて、上記の傾向に大きな違いは見られない。

こづかいの使途

図50



▶▶ ウ 休日の過ごし方

問 あなたは、休日は主にどのように過ごしていますか。よくすることの番号を3つまで選んで○をつけてください。

年代別に高い割合の回答をみると、小学2年は高い順に「学習をする」「友だちと遊ぶ」、小学5年は「友だちと遊ぶ」「ゲームをする」、中学2年は「部活動」「音楽を鑑賞する」、高校2年は「部活動」「ずっと家にいる」、青年は「買い物に出かける」「インターネットをする」の順になっている。

休日の過ごし方

表2

(単位:%)

選択肢	勉強をする (学習をする)	家の手伝い をする	部活動(ス ポーツ少年 団に参加す る)	塾や習い事 に行く	地域の行事 に参加する	図書館や美 術館などの 公共施設に 行く	音楽を鑑賞 する	人前で歌っ たり楽器を 演奏する
小学2年 n=404	41.4	17.2	-	8.1	4.4	7.2	2.6	-
小学5年 n=414	-	14.0	21.3	13.6	1.6	1.4	6.3	2.7
中学2年 n=446	13.6	20.6	42.0	10.5	6.1	2.6	32.2	8.8
高校2年 n=438	14.8	3.0	59.8	5.5	0.2	1.1	13.2	1.4
青年 n=495	15.4	18.5	-	2.6	5.2	8.6	23.2	5.5

選択肢	スポーツを する	ゲームをす る(カードゲ ーム、テレビ ゲーム、パソ コンゲームな ど)	登山、ハイ キング、つ りをする	将棋、囲碁 をする	家でテレビ やビデオを 見る	友だちと電 話で話をす る	インターネ ットをする	カラオケへ 行く
小学2年	17.9	19.1	-	-	23.0	-	-	-
小学5年	17.2	33.5	-	-	33.3	0.5	-	0.9
中学2年	0.4	16.6	0.9	3.3	1.5	2.8	22.3	17.1
高校2年	12.1	24.0	0.7	0.0	22.4	4.6	21.5	7.3
青年	23.5	26.4	5.5	1.3	55.1	9.1	51.4	15.1

※小学2年は「音楽を聞いたり楽器を演奏する」という選択肢となっているため、「音楽を鑑賞する」に記載した。

青少年について (5) 生活

選択肢	ゲームセンターに行く	映画や遊園地に行く	ファストフード店等の飲食店や繁華街で時間を過ごす	買い物に行く	読書をする	友だちと遊ぶ	家族と過ごす(家の人と何かする)	グループ活動、サークル活動に参加する
小学2年	7.9	3.5	-	24.7	16.7	32.3	13.0	-
小学5年	3.4	2.9	-	23.1	10.9	43.4	17.6	-
中学2年	13.1	1.3	21.4	0.7	4.6	-	0.0	-
高校2年	2.5	0.9	0.9	16.0	4.8	-	9.8	-
青年	5.2	9.7	8.6	65.8	-	-	-	11.7

選択肢	動物をかわいがる	ゆっくり休む	子ども会活動をする	マージャンをする	ドライブに行く	クラブ(ディスコ)に行く	お酒を飲む	ずっと家にいる
小学2年	5.6	16.5	-	-	-	-	-	-
小学5年	9.0	22.2	0.7	-	-	-	-	-
中学2年	-	-	-	-	-	-	-	21.7
高校2年	-	-	-	-	-	-	-	29.9
青年	-	-	-	0.8	25.6	0.5	17.0	-

選択肢	その他	無回答
小学2年	4.9	0.0
小学5年	4.8	0.0
中学2年	4.6	0.0
高校2年	7.8	0.2
青年	0.0	0.8

▶▶ エ インターネット機器の利用状況

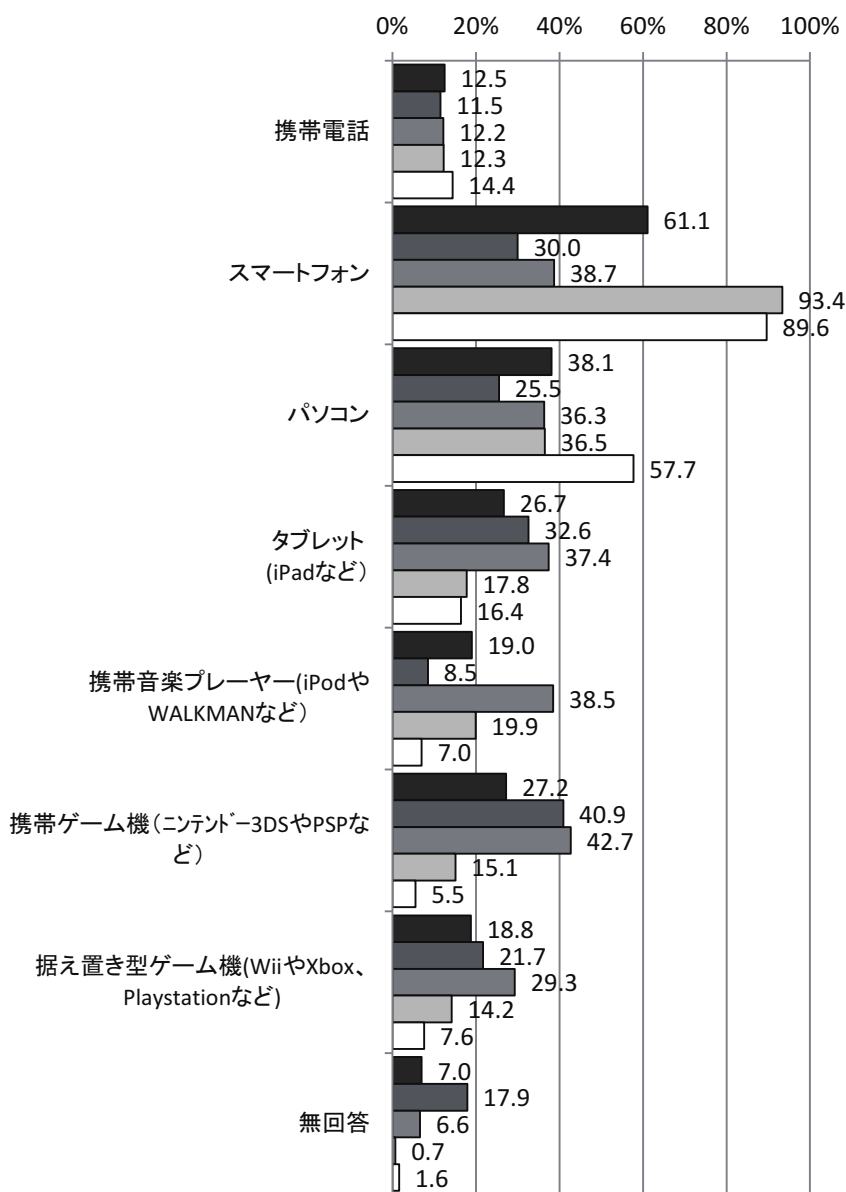
問 あなたは、以下の機器でインターネットを利用していますか。ふだん利用しているものすべて選んで○をつけてください。

年代別に回答の多い項目をみると、「携帯ゲーム機」の回答は小学5年と中学2年で多く、高校2年と青年では約9割が「スマートフォン」と回答している。「携帯音楽プレイヤー」と回答した割合が最も高いのは中学2年であった。

※インターネットを利用する際に使用する機器を尋ねており、本人が所有している機器についての調査ではない。

インターネット機器の利用状況

図51



■ 全体 n=1759 ■ 小学5年 n=470 ■ 中学2年 n=468 ■ 高校2年 n=438 □ 青年 n=383

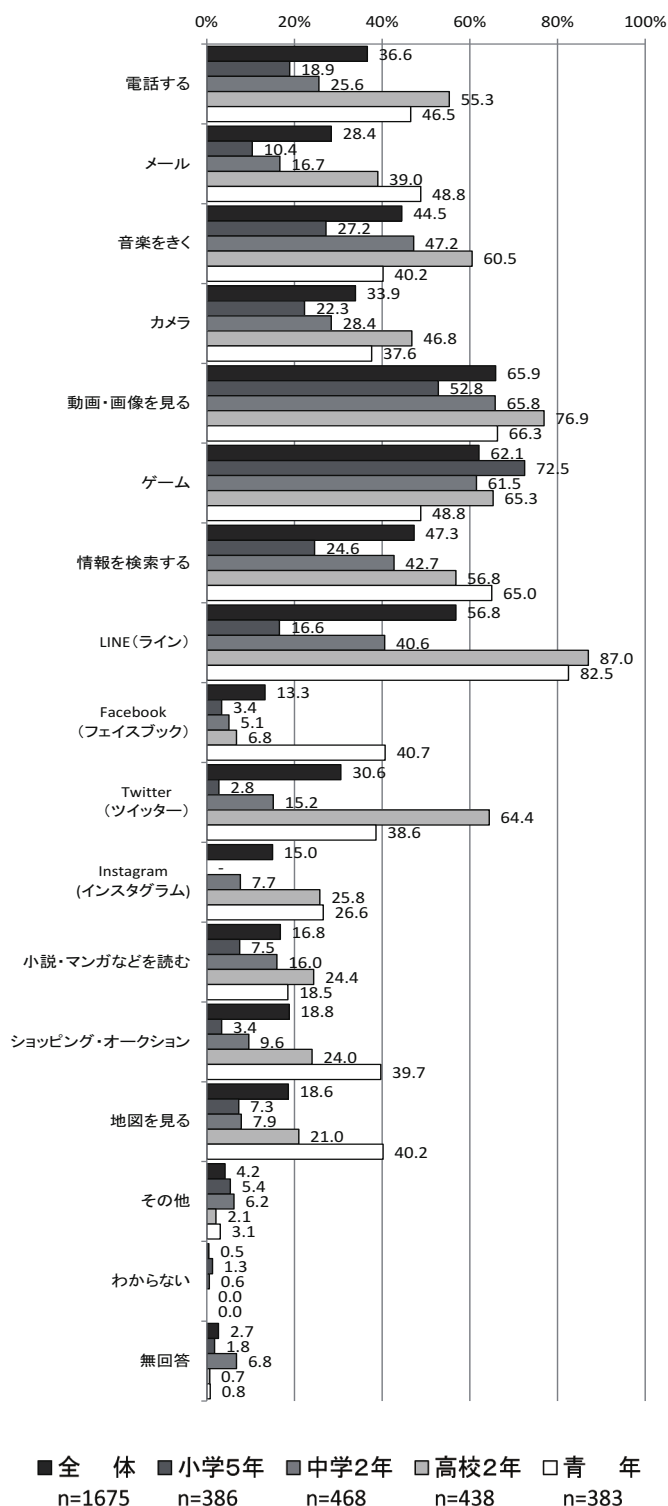
▶▶ オ インターネットの利用目的

問 質問 14 (インターネット機器の利用状況) でひとつでも○を選んだ人に質問します。インターネットを利用して何をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

年代別に、回答の多い項目をあげると、小学5年では回答の多い順に「ゲーム」「動画・画像を見る」、中学2年では「動画・画像を見る」「ゲーム」、高校2年と青年では「LINE」「動画・画像を見る」であった。「LINE」は中学2年の約4割、高校2年と青年では約8割から9割が回答している。

インターネットの利用目的

図 52



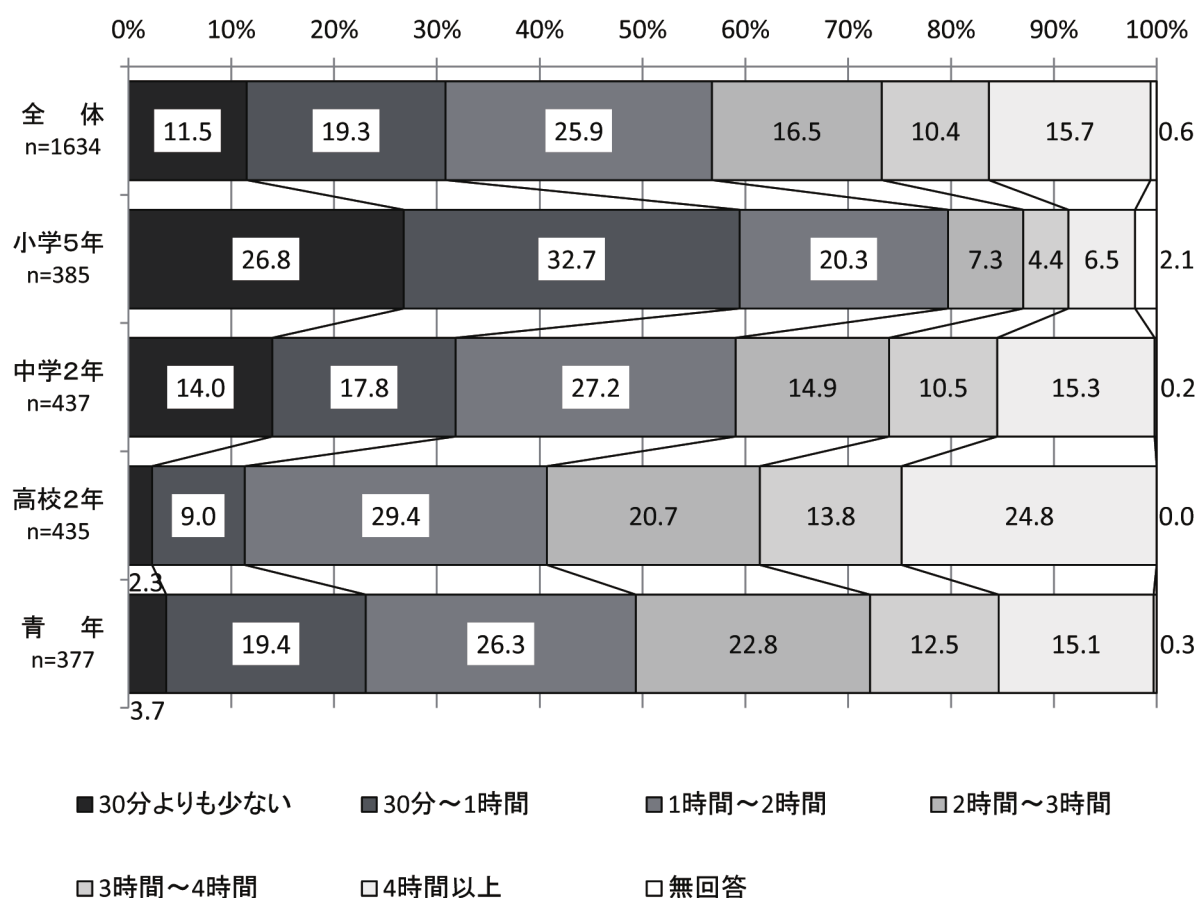
▶▶ カ インターネットの利用時間

問 質問 14 (インターネット機器の利用状況) でひとつでも○を選んだ人に質問します。あなたは、一日平均どれくらいの時間インターネットを利用していますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

年代別にみると、一日のインターネットの平均利用時間について1時間未満と回答した割合は小学5年では約6割であったが、中学2年では約3割、高校2年では約1割、青年では約2割であった。小学5年を除く各年代で、最も回答が多かったのは「1時間～2時間」であった。また、高校2年の約4分の1が「4時間以上」と回答している。

インターネットの利用時間

図53



キ 青年が普段自宅をよくしていること

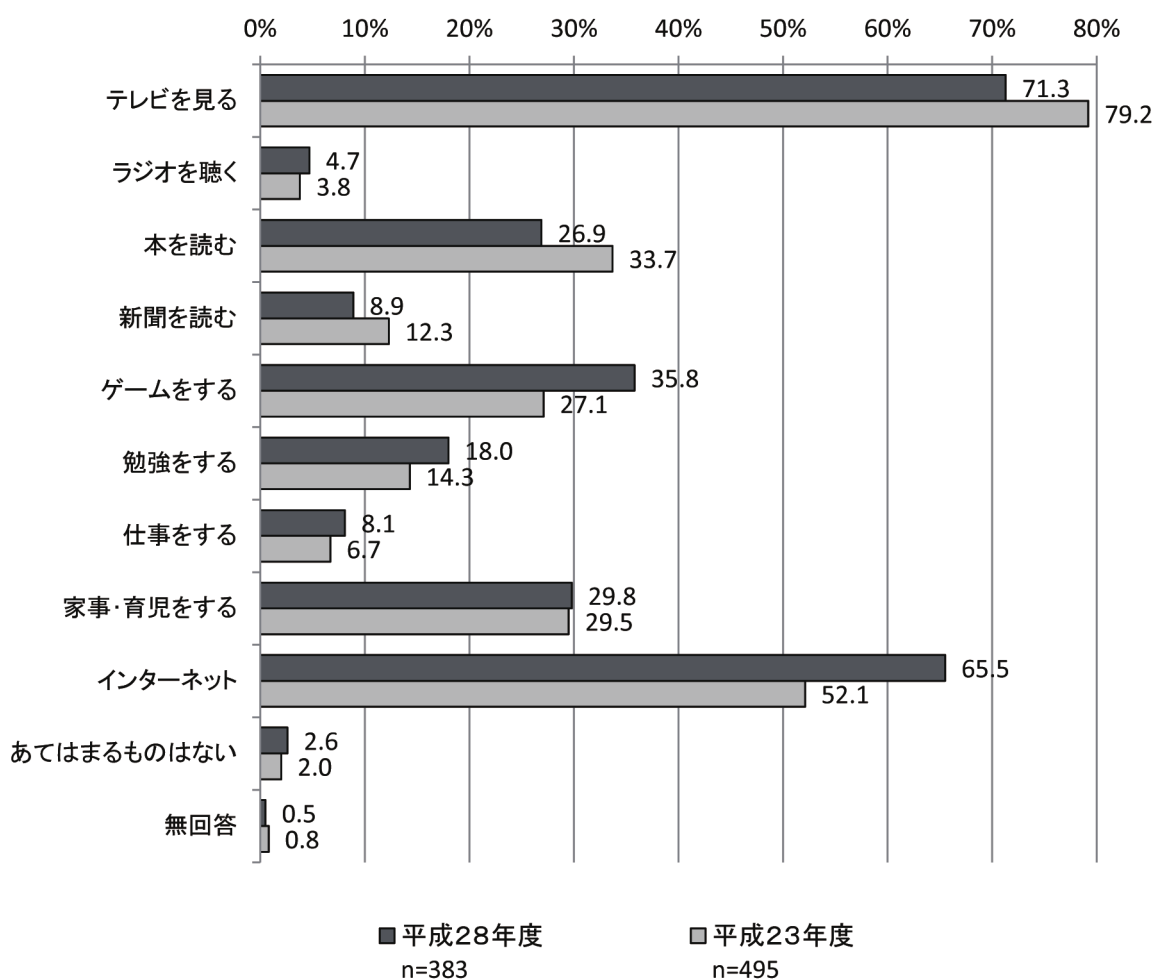
問 あなたが、普段ご自宅にいるときによくしていることを、次の中からいくつでも選んで○をつけてください。

青年に対して、普段の自宅での活動について複数回答で質問したところ、「テレビを見る」の回答が約7割であり、次いで「インターネット」が約6.5割、「ゲームをする」が約3.5割となっている。

平成23年度と比較すると、「テレビを見る」「本を読む」「新聞を読む」が減少した一方、「ゲームをする」「勉強をする」「インターネット」が増加している。

青年が普段自宅をよくしていること

図54



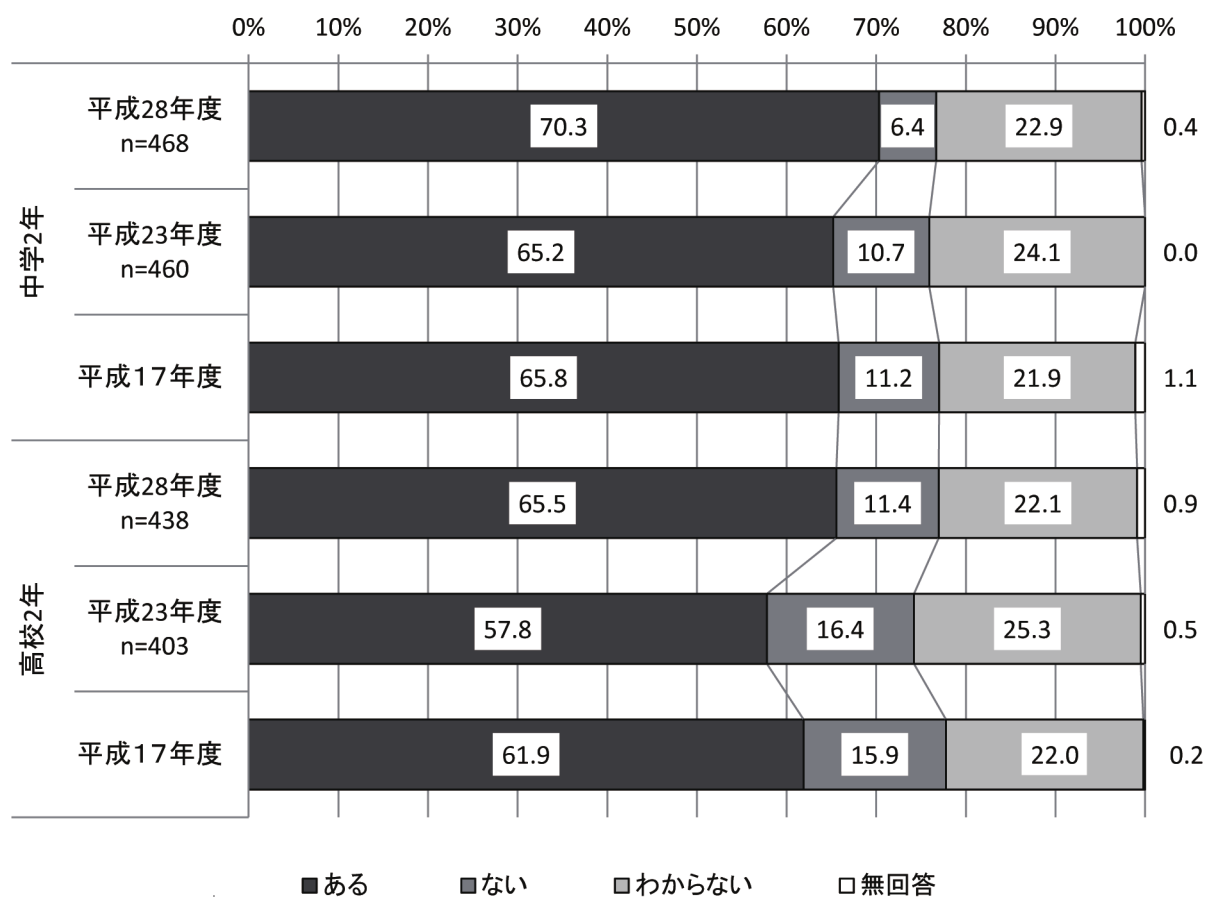
▶▶ ク 打ち込んでやれることの有無

問 あなたは、何か打ち込んでやれることを持っていますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

中学2年、高校2年どちらの年代においても、平成17年度から平成23年度にかけて「ある」の割合が減少したが、平成28年度にかけて上昇している。

打ち込んでやれることの有無

図55



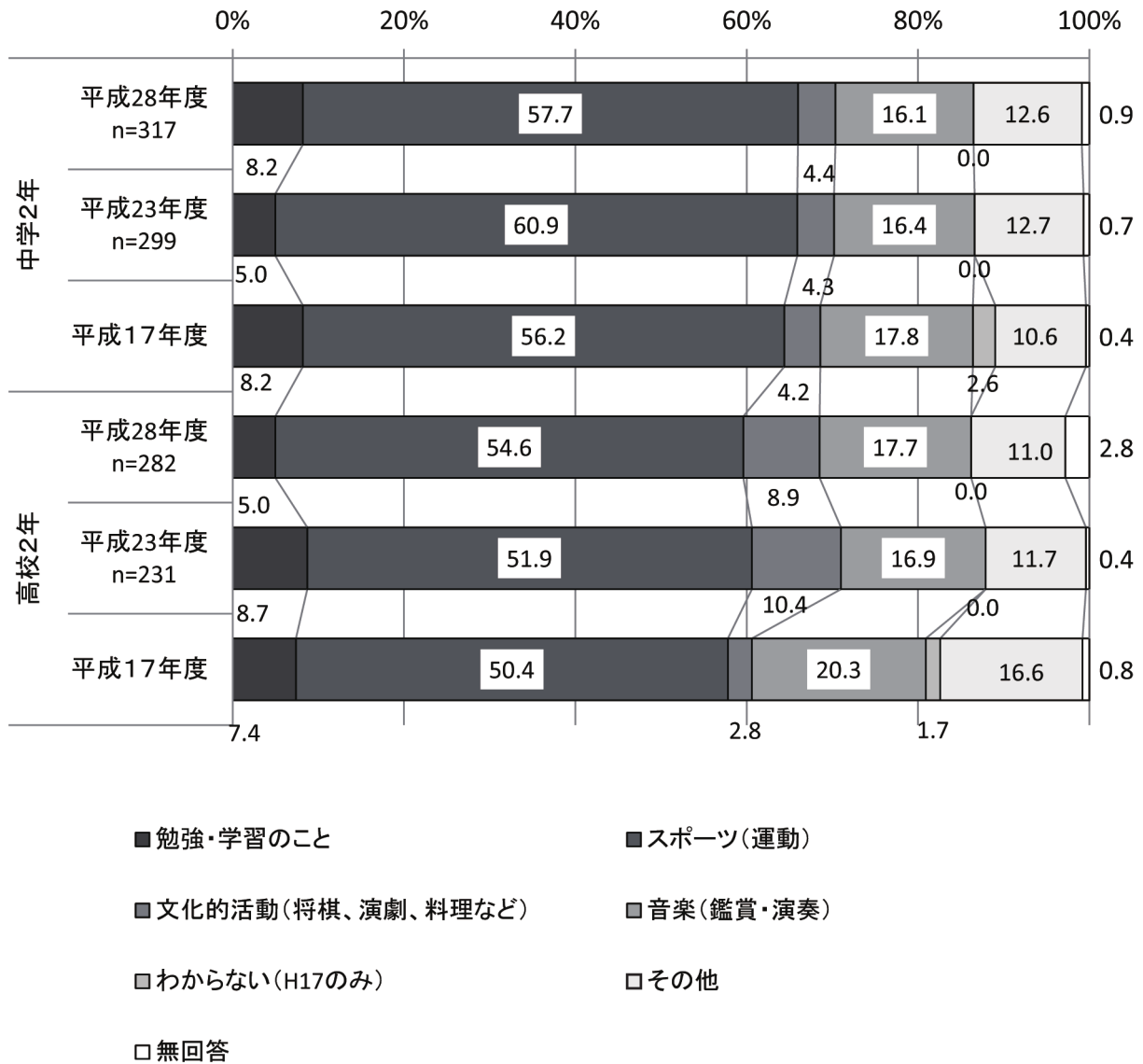
▶▶ ケ 打ち込んでやれることの内容

問 質問 17 (打ち込んでやれることの有無) で、「1 ある」を選んだ人に質問します。それはどんなことについてですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

平成17年度、平成23年度、平成28年度のいずれの調査においても「スポーツ(運動)」が最も多く、5割を上回っている。

打ち込んでやれることの内容

図56



▶▶ コ 青年が充実していると感じるとき

問 あなたは、何か打ち込んでやれることを持っていますか。それはどんなことですか。当てはまる番号を一つ選んで○をつけてください。

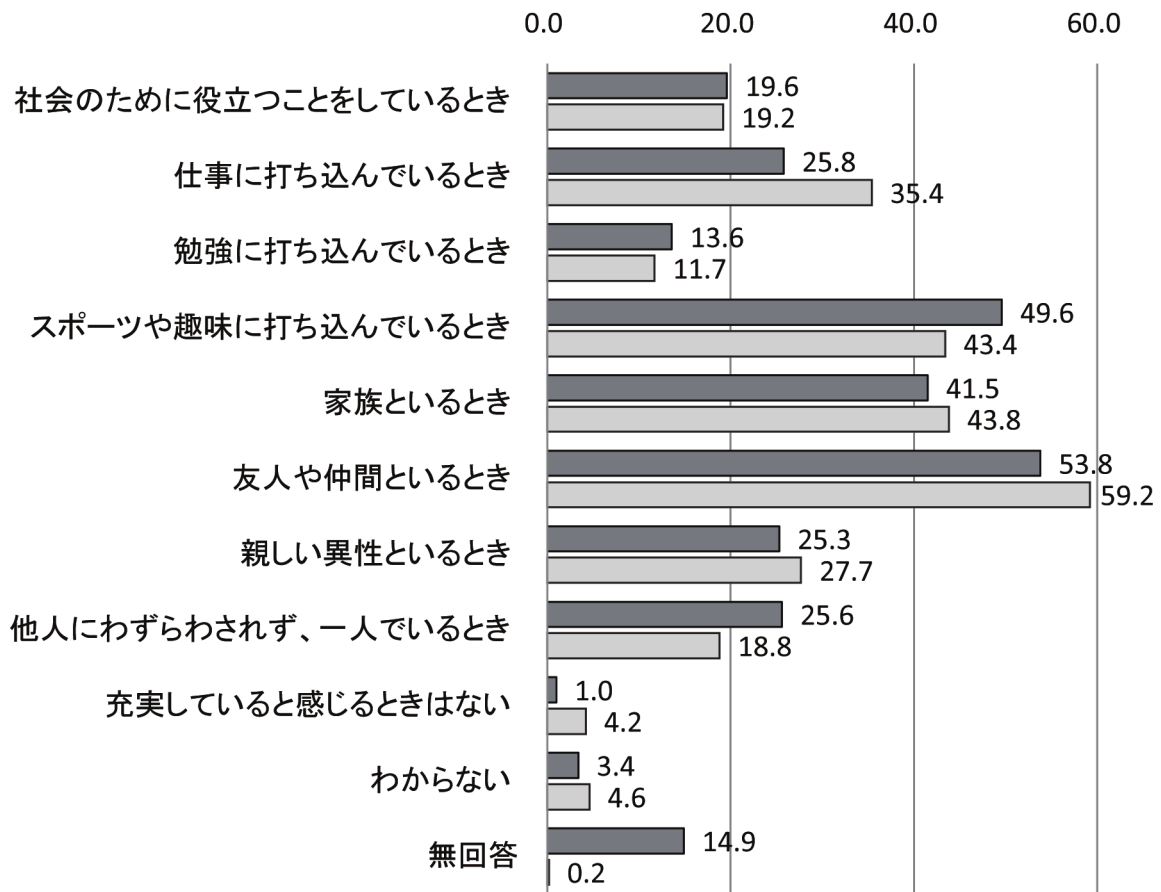
「友人や仲間といるとき」「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」「家族といるとき」の順に回答が多かった。

平成23年度と比べると、「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」「他人にわずらわされず、一人であるとき」が5%以上増加した。一方で、「仕事に打ち込んでいるとき」「友人や仲間といるとき」が5%以上減少した。

青年が充実していると感じるとき

図57

(%)



■平成28年度 n=383

□平成23年度 n=495

▶▶▶ サ 体験的活動の経験

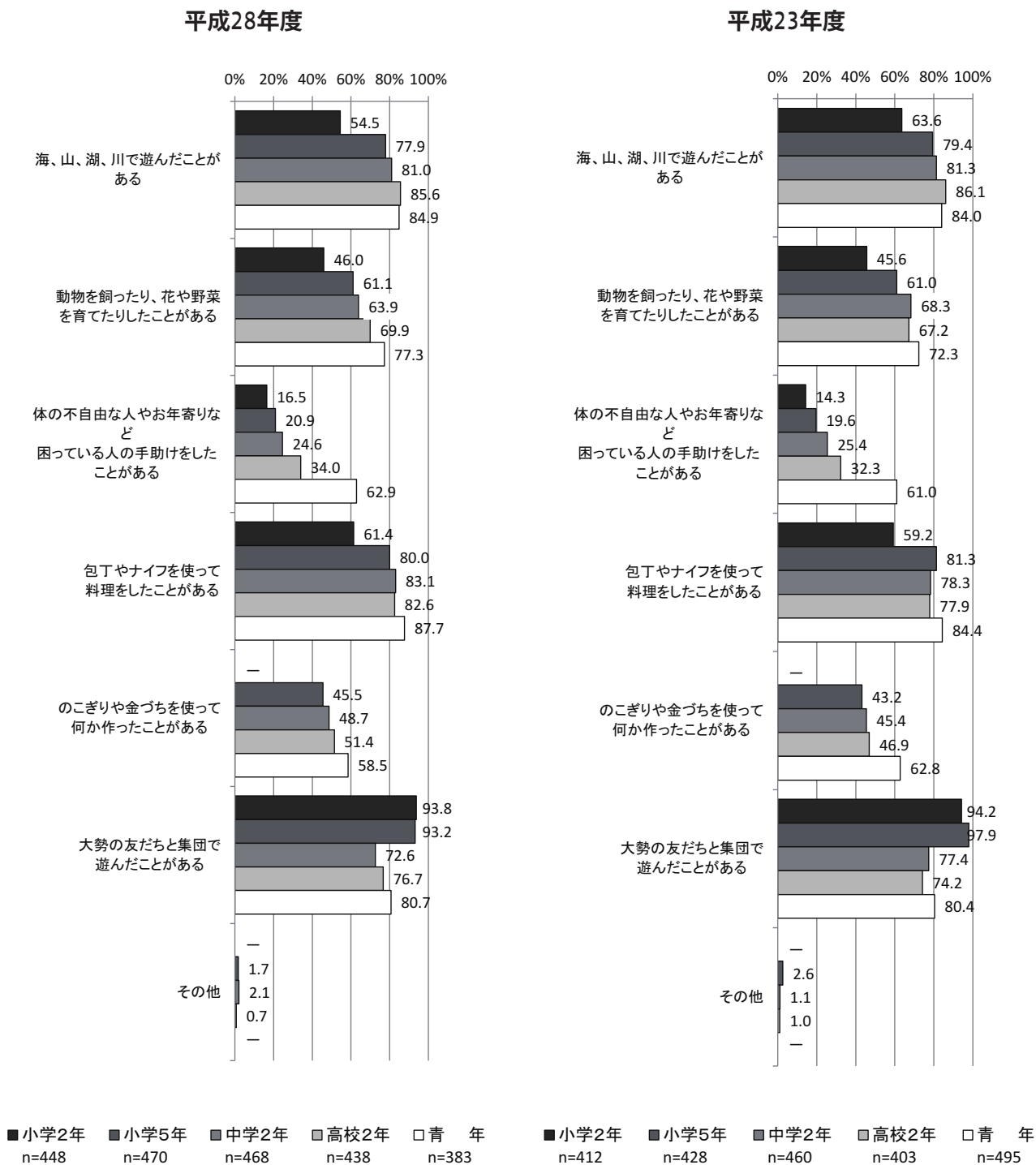
問 あなたが、これまでに学校の勉強や行事以外で体験したことがあるものについて、当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

一般的に、年代が上がるにつれて体験的活動を経験した割合が増えている。

「海、山、湖、川で遊んだことがある」や「包丁やナイフを使って料理をしたことがある」の設問には小学2年を除く全ての年代で約8割が「ある」と回答している。

体験的活動の経験

図58



小2用調査票の質問文を下記のとおり修正

(旧) あなたが、学校のべんきょうやぎょうじではないときに (家や、ちいきのぎょうじなどで)、したことがあるものを、いくつでも (以下略)

(新) あなたが、学校ではなく、家や、ちいきのぎょうじなどでしたことがあるものを、いくつでも (以下略)